



# オリンピック・パラリンピック教育 実践事例集

平成 29 年 9 月  
東京都教育委員会



はじめに

東京都教育委員会では、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を、東京都の幼児・児童・生徒の人生にとってまたとない重要な機会と捉え、その後の人生の糧となるような掛け替えのないレガシーを一人一人の心と体に残していくために、オリンピック・パラリンピック教育を平成28年度から都内全ての公立学校で展開しています。

平成28年度は、「オリンピック・パラリンピックの精神」、「スポーツ」、「文化」、「環境」の4つのテーマと、「学ぶ（知る）」「観る」「する（体験・交流）」「支える」の4つのアクションを組み合わせた「4×4の取組」が、学校それぞれのアイデアによって大きく展開されました。

今年度は、これらの「4×4の取組」を継続して展開することにより、「ボランティアマインド」「障害者理解」「スポーツ志向」「日本人としての自覚と誇り」「豊かな国際感覚」の5つの資質を重点的に育成することを目指しています。

本事例集では、「重点的に育成すべき5つの資質」の育成について、各教科等と関連させた効果的な実践を行った学校、44校の取組内容をまとめました。

各学校においては、本事例集を参考にし、これまでの取組を一層充実させるとともに、他の資質の育成に新たに取り組むなど、組織的・計画的にオリンピック・パラリンピック教育を推進することを期待しています。

東京都教育委員会

# 目 次

はじめに

目次

## 1 平成28年度のオリンピック・パラリンピック教育の現状

- 1 実施時数一覧 . . . . . 5
- 2 学年別・教科別のオリンピック・パラリンピック教育実施時数 . . . . . 6

## 2 平成28年度オリンピック・パラリンピック教育重点校アンケート調査結果について

- 1 ボランティアマインドの醸成 . . . . . 9
- 2 障害者理解の促進 . . . . . 10
- 3 スポーツ志向の普及・拡大 . . . . . 11
- 4 日本人としての自覚と誇りの涵養 . . . . . 12
- 5 豊かな国際感覚の醸成 . . . . . 13

## 3 重点的に育成すべき5つの資質について

- 【5つの資質】 . . . . . 14
- 【5つの資質を伸ばすための4つのプロジェクト】 . . . . . 15

## 4 オリンピック・パラリンピック教育における重点取組の発達段階別指導内容 . . . . . 16

## 5 実践事例 . . . . . 17

### ボランティアマインド

- 墨田区立言問小学校 . . . . . 18
- 大田区立大森第五小学校 . . . . . 20
- 渋谷区立笹塚小学校 . . . . . 22
- 荒川区立ひぐらし小学校 . . . . . 24
- 連雀学園三鷹市立南浦小学校 . . . . . 26
- 小平市立小平第十二小学校 . . . . . 28
- 多摩市立豊ヶ丘小学校 . . . . . 30
- 港区立御成門中学校 . . . . . 32
- 港区立小中一貫教育校お台場学園 . . . . . 34
- 大田区立貝塚中学校 . . . . . 36
- 大田区立安方中学校 . . . . . 38
- 杉並区立天沼中学校 . . . . . 40
- 練馬区立開進第四中学校 . . . . . 42
- 足立区立千寿桜堤中学校 . . . . . 44

|                   |    |
|-------------------|----|
| 武蔵村山市立第二中学校（村山学園） | 46 |
| 東京都立第三商業高等学校      | 48 |

## 障害者理解

|             |    |
|-------------|----|
| 墨田区立小梅小学校   | 50 |
| 江東区立東陽小学校   | 52 |
| 世田谷区立弦巻小学校  | 54 |
| 中野区立中野本郷小学校 | 56 |
| 豊島区立要小学校    | 58 |
| 板橋区立蓮根小学校   | 60 |
| 江戸川区立本一色小学校 | 62 |
| 八王子市立式分方小学校 | 64 |
| 日野市立夢が丘小学校  | 66 |
| 東大和市立第六小学校  | 68 |
| 多摩市立連光寺小学校  | 70 |
| 西東京市立東小学校   | 72 |
| 中央区立晴海中学校   | 74 |
| 練馬区立貫井中学校   | 76 |
| 多摩市立聖ヶ丘中学校  | 78 |
| 東京都立八王子盲学校  | 80 |

## スポーツ志向

|                |    |
|----------------|----|
| 東村山市立秋津小学校     | 82 |
| 小金井市立東中学校      | 84 |
| 東京都立山崎高等学校     | 86 |
| 東京都立八王子東特別支援学校 | 88 |

## 日本人としての自覚と誇り

|              |    |
|--------------|----|
| 台東区立蔵前小学校    | 90 |
| 文京区立第九中学校    | 92 |
| 東久留米市立南中学校   | 94 |
| あきる野市立秋多中学校  | 96 |
| 東京都立城南特別支援学校 | 98 |

## 豊かな国際感覚

|            |     |
|------------|-----|
| 北区立梅木小学校   | 100 |
| 世田谷区立三宿中学校 | 102 |
| 東京都立大島高等学校 | 104 |

|           |     |
|-----------|-----|
| 実践事例協力校一覧 | 106 |
|-----------|-----|

# 1 平成28年度のオリンピック・パラリンピック教育の現状

平成28年度、東京都教育委員会では、都内全ての公立学校においてオリンピック・パラリンピック教育を開始しました。各学校・園では、「4つのテーマ」（オリンピック・パラリンピックの精神、スポーツ、文化、環境）と「4つのアクション」（学ぶ、観る、する、支える）を組み合わせた、多彩な「4×4の取組」が実践されています。

平成29年度以降は、「4×4の取組」の充実により育まれる、「重点的に育成すべき5つの資質」（ボランティアマインド、障害者理解、スポーツ志向、日本人としての自覚と誇り、豊かな国際感覚）に着目した取組を推進し、その中でも、これからの共生社会の実現に必要な資質を伸ばすため、ボランティアマインド、障害者理解、豊かな国際感覚、を育てる取組を拡充していきます。

その一環として「東京ユースボランティア」「スマイルプロジェクト」「夢・未来プロジェクト」「世界ともだちプロジェクト」の4つのプロジェクトの更なる充実を図ります。

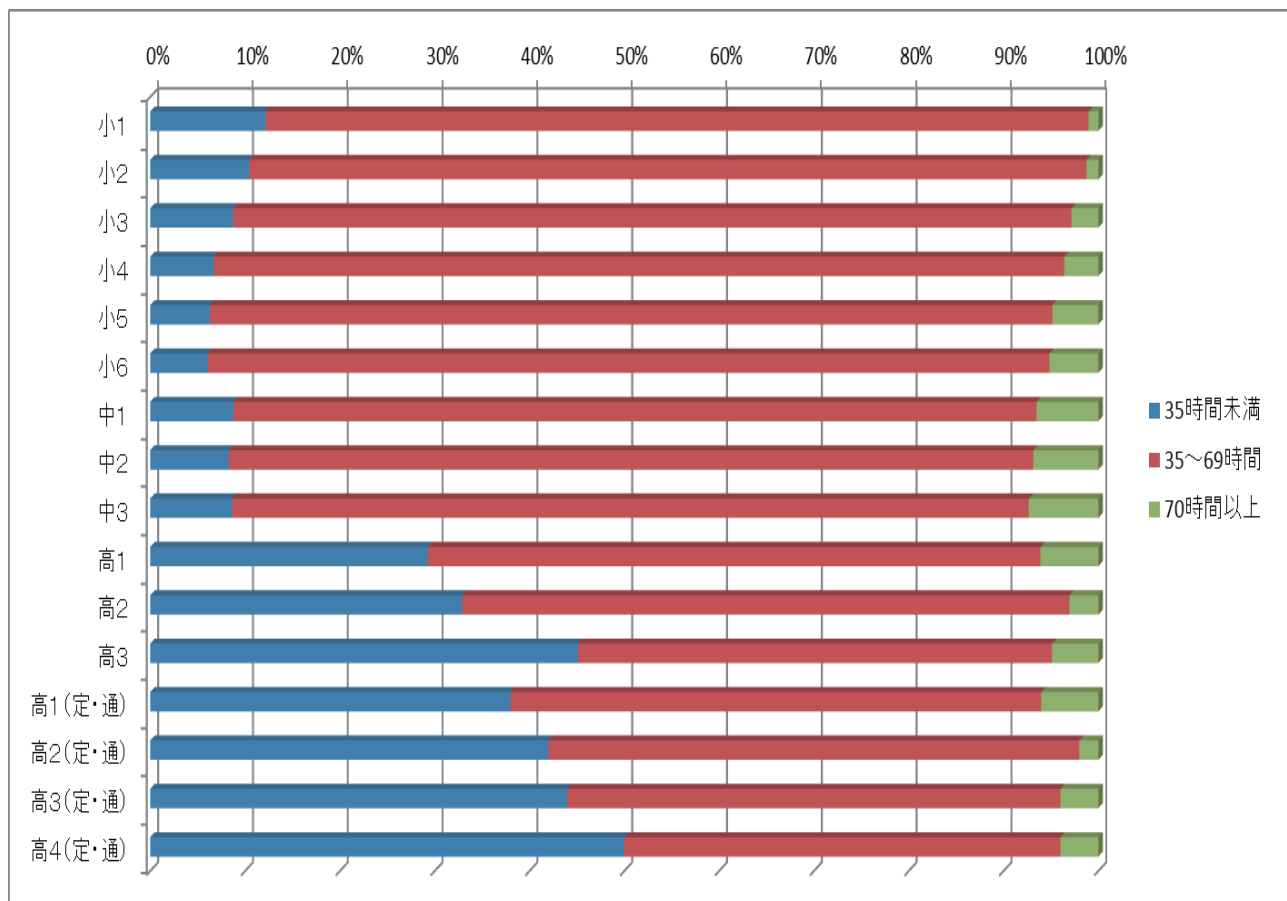
## 【平成28年度の実績】

- ・ オリンピック・パラリンピック教育推進事業（全公立学校 約2,300校）
- ・ オリンピック・パラリンピック教育重点校（100校）
- ・ アスリート学校派遣事業「夢・未来」プロジェクトの実施（220校）
- ・ オリンピック・パラリンピック教育学習読本及び学習ノートを小学校4年生以上の全児童・生徒に配布（約67万冊）
- ・ オリンピック・パラリンピック教育の考え方・進め方に関する全校説明会（10回）  
オリンピック・パラリンピック教育シンポジウムの実施（3回）
- ・ オリンピック・パラリンピック教育推進のための教員研修会（6回）
- ・ パラリンピックスポーツ指導者講習会の実施（3回）

## 【平成28年度オリンピック・パラリンピック教育実施状況】

（「平成28年度オリンピック・パラリンピック教育実施報告書」から）平成28年度オリンピック・パラリンピック教育における学年別、教科別実施状況は以下のとおりです。

### 1 実施時数一覧

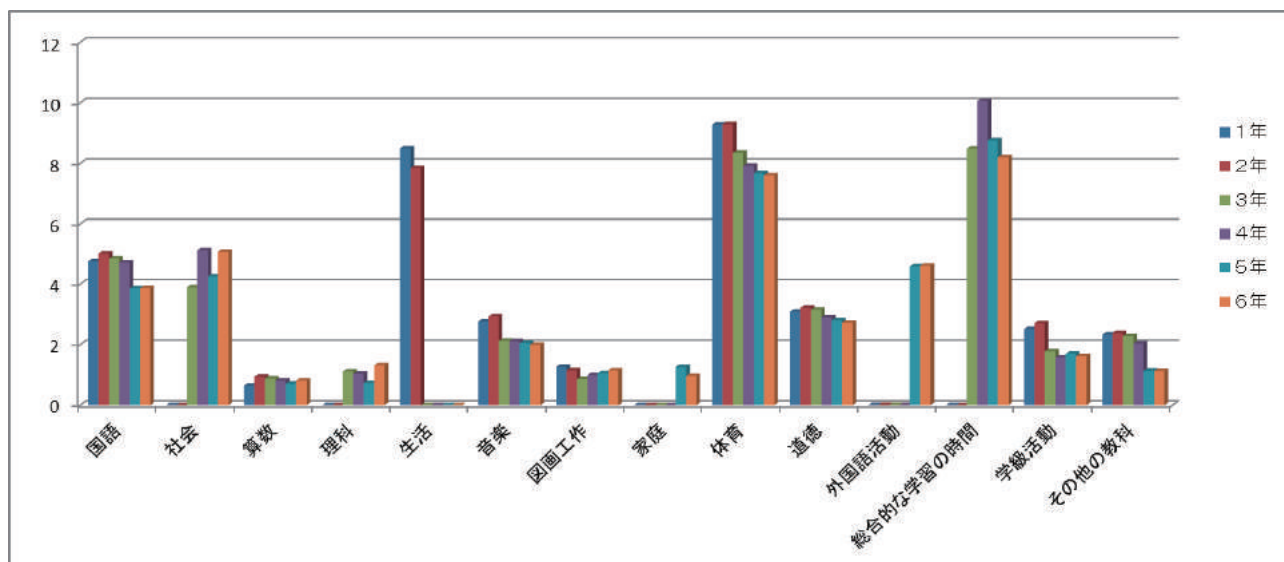


#### <概況>

- ・ オリンピック・パラリンピック教育を年間70時間以上実施した学校の割合は、中学校3年生までは漸増した。学習内容や発達段階により、小・中学校では学年が上がるにつれてオリンピック・パラリンピックと関連付ける学習内容が多くなると考えられる。
- ・ 小学校では、低学年になるほど年間35時間を下回った学校の割合が増えた。低学年におけるオリンピック・パラリンピック教育の推進が課題である。
- ・ 高等学校では、最終学年で進路指導等により実施時数が少なくなる傾向があり、ボランティア活動など教科の授業以外の活動も、オリンピック・パラリンピック教育と関連付けられるという認識を高める必要がある。
- ・ 定時制・通信制の高等学校では年間35時間の実施が困難な状況が見られる。まずは生徒にオリンピック・パラリンピックの魅力や精神を伝え、生徒の実態に応じた多様な取組を実践する必要がある。

## 2 学年別・教科別のオリンピック・パラリンピック教育実施時数

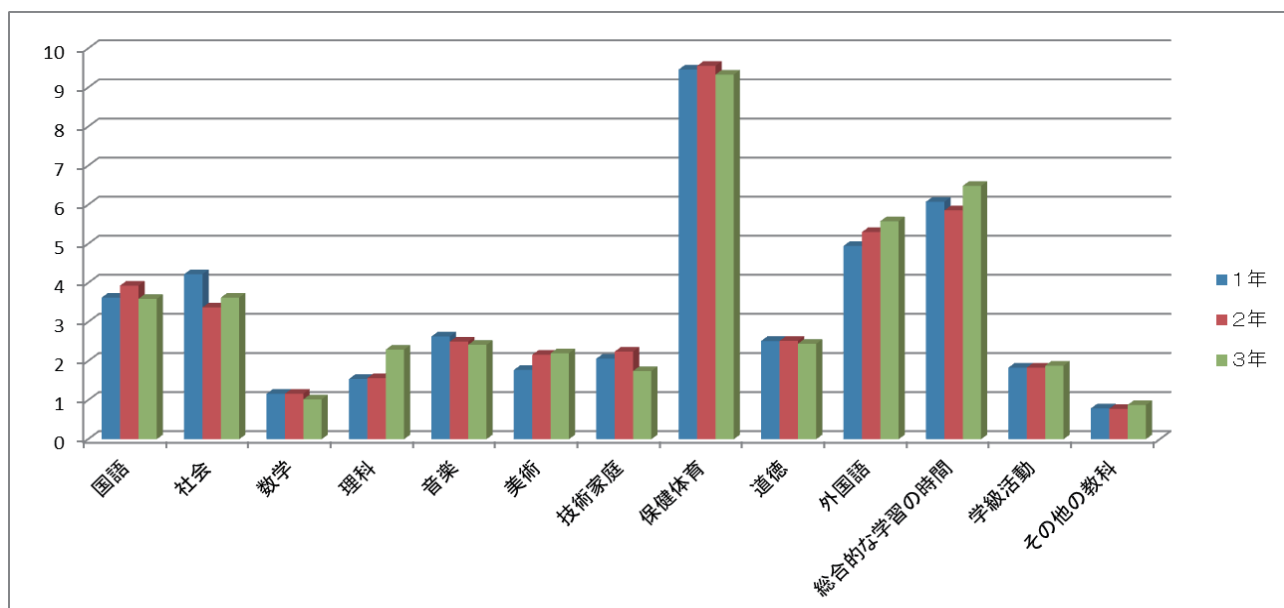
### <小学校>



#### <概況>

- ・ 社会は教科書で扱う内容とオリンピック・パラリンピック教育の内容が合致したため、4年生と6年生での実施が多かった。
- ・ 算数、理科、家庭科での取組が少なく、すべての教育活動に関連付けると意識を高める必要がある。
- ・ 体育及び生活・総合的な学習の時間での実施が多かった。特に、4年生の総合的な学習の時間では、福祉に関連付けた取組が多かったと推察される。
- ・ 5つの資質の育成に対して、重点校では道徳の時間を活用しているケースが多くみられる。道徳での実施時間を増やすためには、平成28年度における重点校の実践を、各校に普及啓発していく必要がある。
- ・ 高学年では外国語活動での取組が多かった。

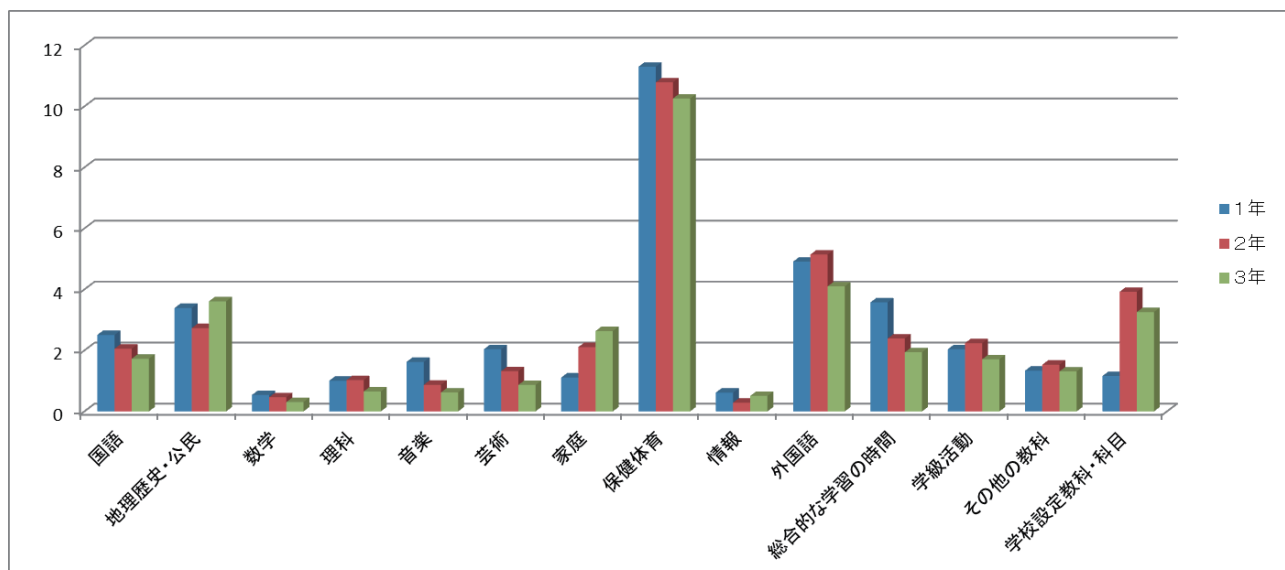
### <中学校>



#### <概況>

- ・ 保健体育での実施が高く、次いで総合的な学習の時間、外国語の取組が多かった。
- ・ 教科を横断した取組を実践するために、教科担任間のコミュニケーションが重要である。各教科の取組を効果的にするために、関連する教科等における取組を推進する必要がある。
- ・ 全ての教育活動と関連させた、オリンピック・パラリンピック教育の取組を推進することが必要である。

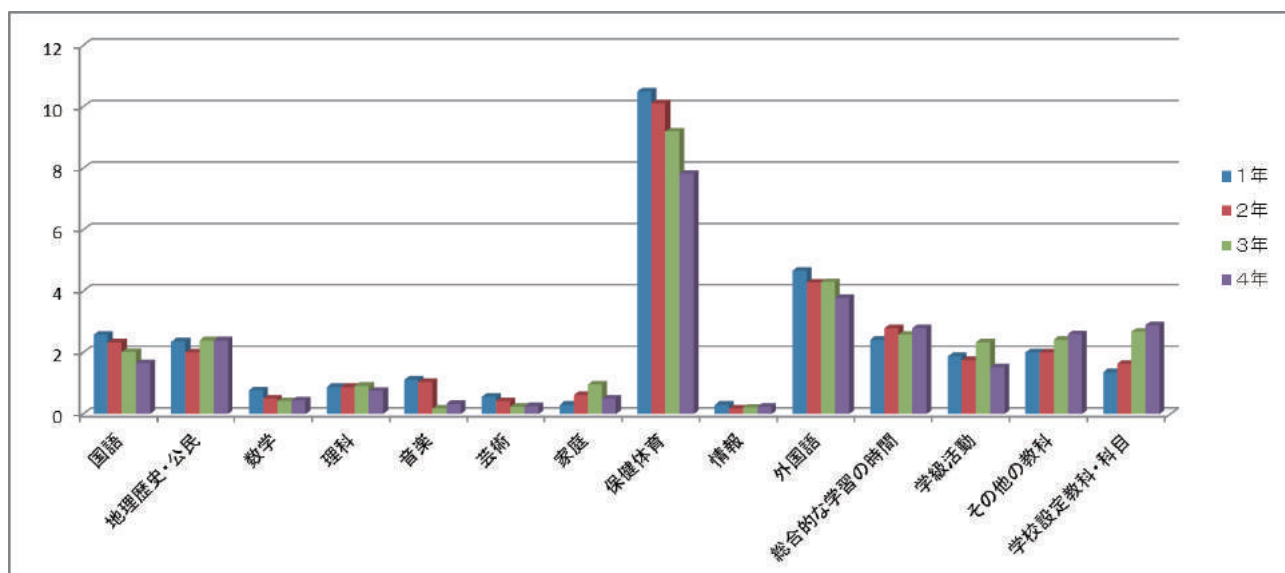
## <高等学校（全日制）>



### <概況>

- ・ 保健体育での実施が高く、次いで外国語の時間での実施が多かった。どの教科でも実践可能であることを周知するとともに効果的な実践事例の周知が必要である。
- ・ 比較的取り組みやすいと考えられる、総合的な学習の時間での実践が小中学校に比べて少ない。
- ・ 学年の進行において、取組時間が減少している。特に、最終学年での実践事例の周知が必要である。
- ・ 今後、カリキュラムマネジメントの視点を取り入れた年間計画の作成例を示していく必要がある。
- ・ 事例集において取組の時間が少ない教科に重点を置いた指導計画例を示し、実践を促していくことが、今後の課題である。

## <高等学校（定時制・通信制）>



### <概況>

- ・ 全日制と同様、保健体育での実施が高く、次いで外国語の時間に取り組む時間が多かった。
- ・ 実施した教科と実施しなかった教科の差がより顕著に表れる傾向が見られた。事例集等をとおして各教科で関連付けが可能であることを示すとともに、教員研修を通して他校との情報共有を図っていくことが必要である。

## 2 平成28年度オリンピック・パラリンピック教育重点校アンケート調査結果について

平成28年度、東京都教育委員会では、各学校において展開されている「4×4の取組」から、「ボランティアマインド」「障害者理解」「スポーツ志向」「日本人としての自覚と誇り」「豊かな国際感覚」の5つの資質を重点的に育成するため、オリンピック・パラリンピック教育重点校を100校指定し、優れた取組を広く発信しました。  
この教育重点校を対象に実施したアンケート調査の結果を掲載します。

### 【調査概要】

1 調査期間 第1回 平成28年7月 第2回 平成29年1月～2月

2 調査方法 質問紙法による

最も否定的な回答を1、最も肯定的な回答を4として数値化し全回答の平均値を算出した（否定的な回答と肯定的な回答が同数の場合、「2.5」となる。）。

### 3 調査対象及び対象数

（1）東京都オリンピック・パラリンピック教育重点校100校の4年生以上の児童・生徒

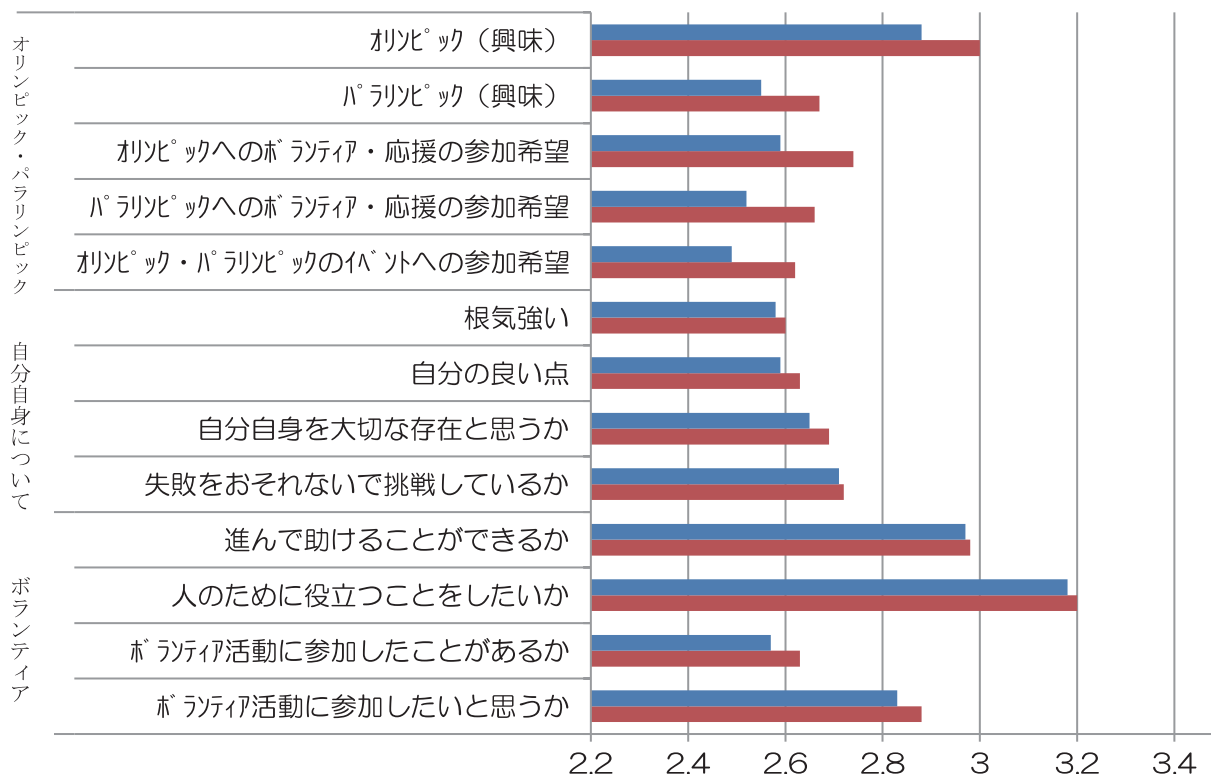
- ・ボランティアマインドの醸成（35校）
- ・障害者理解の促進（35校）
- ・スポーツ志向の普及・拡大（10校）
- ・日本人としての自覚と誇りの涵養（10校）
- ・豊かな国際感覚の醸成（10校）

（2） 第1回 21,887名 第2回 23,452名

【取組内容別結果】 ※全てのグラフで、第1回を上段（青）、第2回を下段（赤）で示した。

## 1 ボランティアマインドの醸成

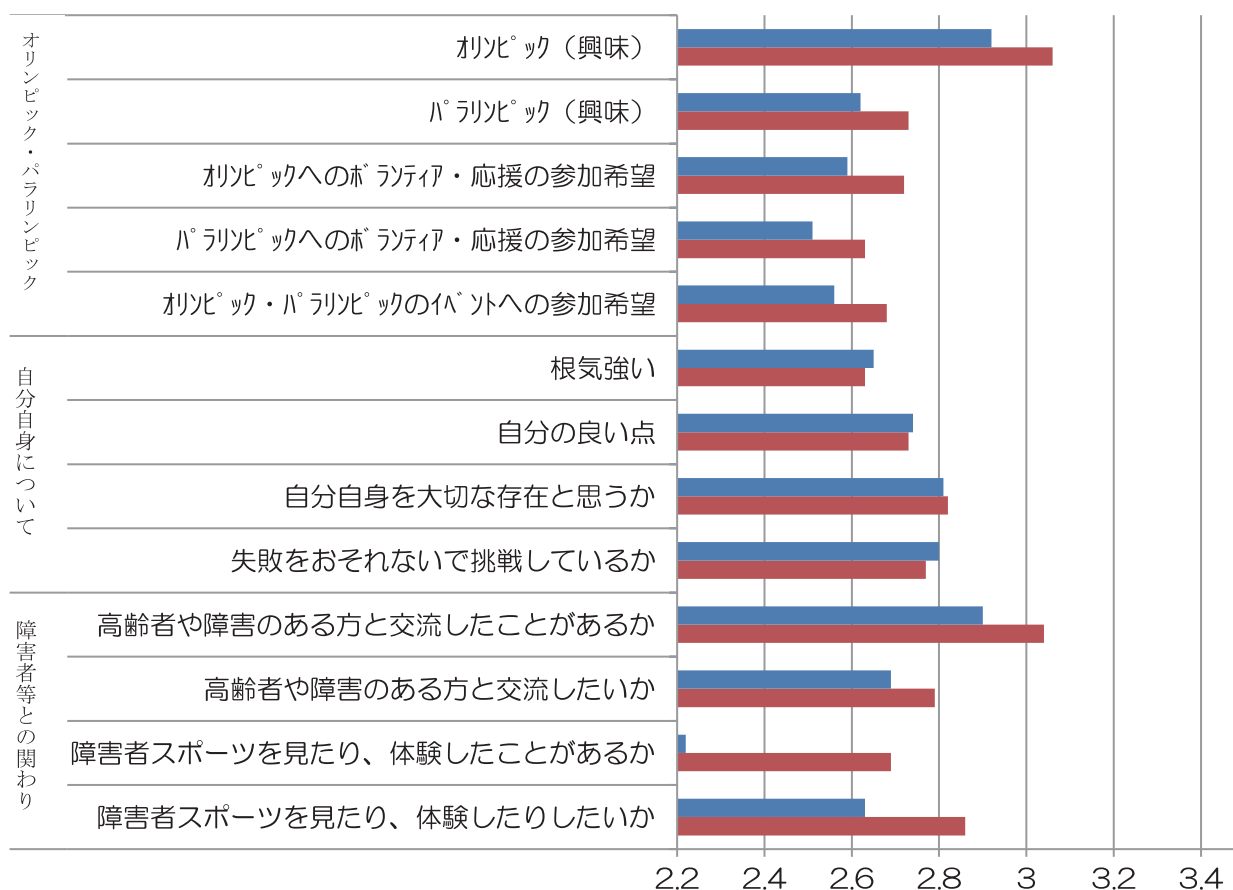
（対象：第1回 8,135名 第2回 9,386名）



- 全ての調査項目において第2回の値が第1回を上回っている。
- 「進んで助けることができるか」、「社会や人のために役立つことをしたいか」の問いに対する値が高くなっていることから、ボランティアマインドが育っていることがうかがえる。
- 「将来、オリンピックやパラリンピックにボランティアや応援などで参加したいか」との問いに対する値が増えている。
- 「ボランティア活動に参加したことがあるか」との問いに対して、「ある」との回答が増えており、児童・生徒のボランティアに参加したいという意識が高まっていることがうかがえる。ボランティア活動の機会を増やすことができれば、ボランティアに参加する児童・生徒が増える可能性が高い。

## 2 障害者理解の促進

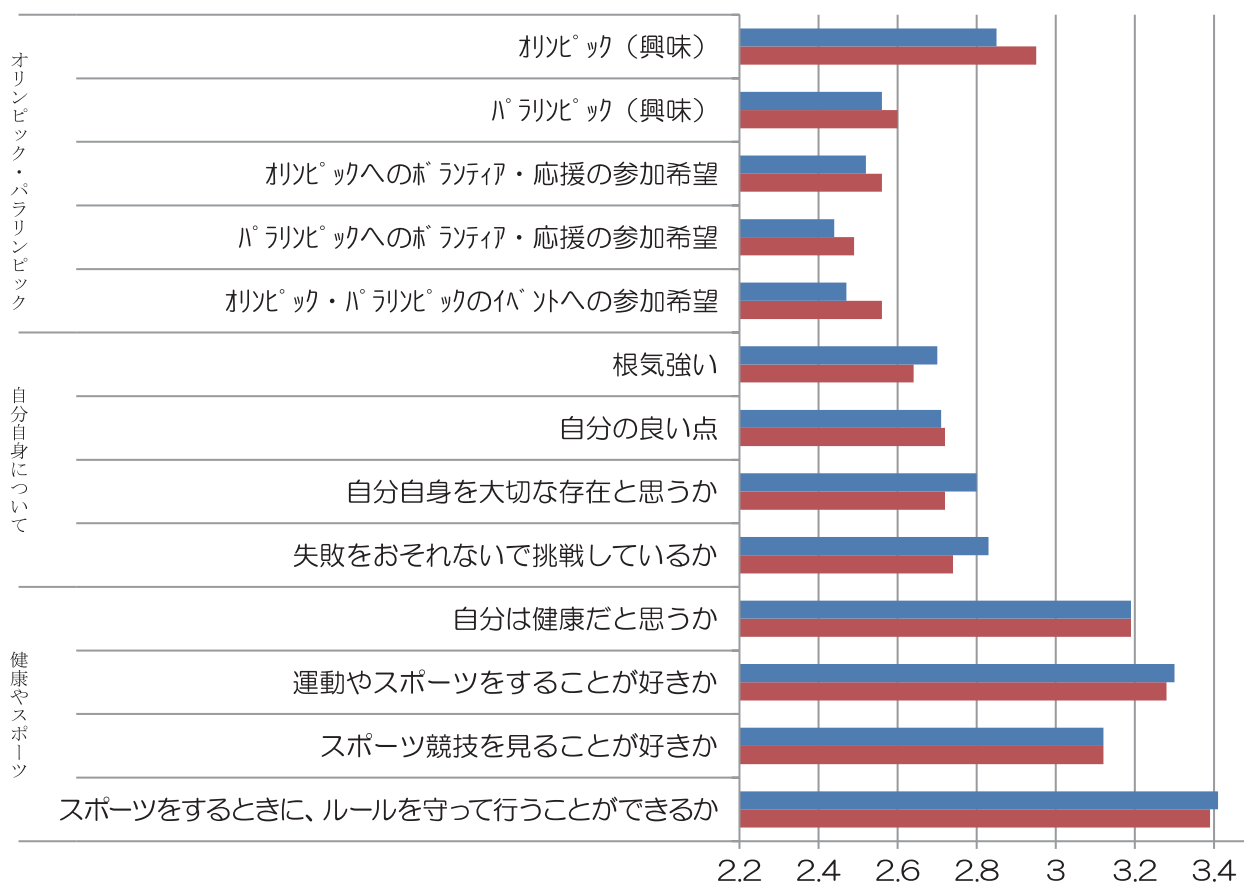
(対象：第1回 7,333名 第2回 8,379名)



- 障害者等との関わりに関する調査項目で第2回の値が第1回を上回っている。
- 「障害者スポーツを見たり、体験したことがあるか」という問いに対する値が大幅に増えており、各学校が体験活動を積極的に取り入れたことが分かる。
- 「障害者スポーツを見たり、体験したりしたいか」という問いに対する値が増えており、体験活動が取組意欲を高めていると考えられる。

### 3 スポーツ志向の普及・拡大

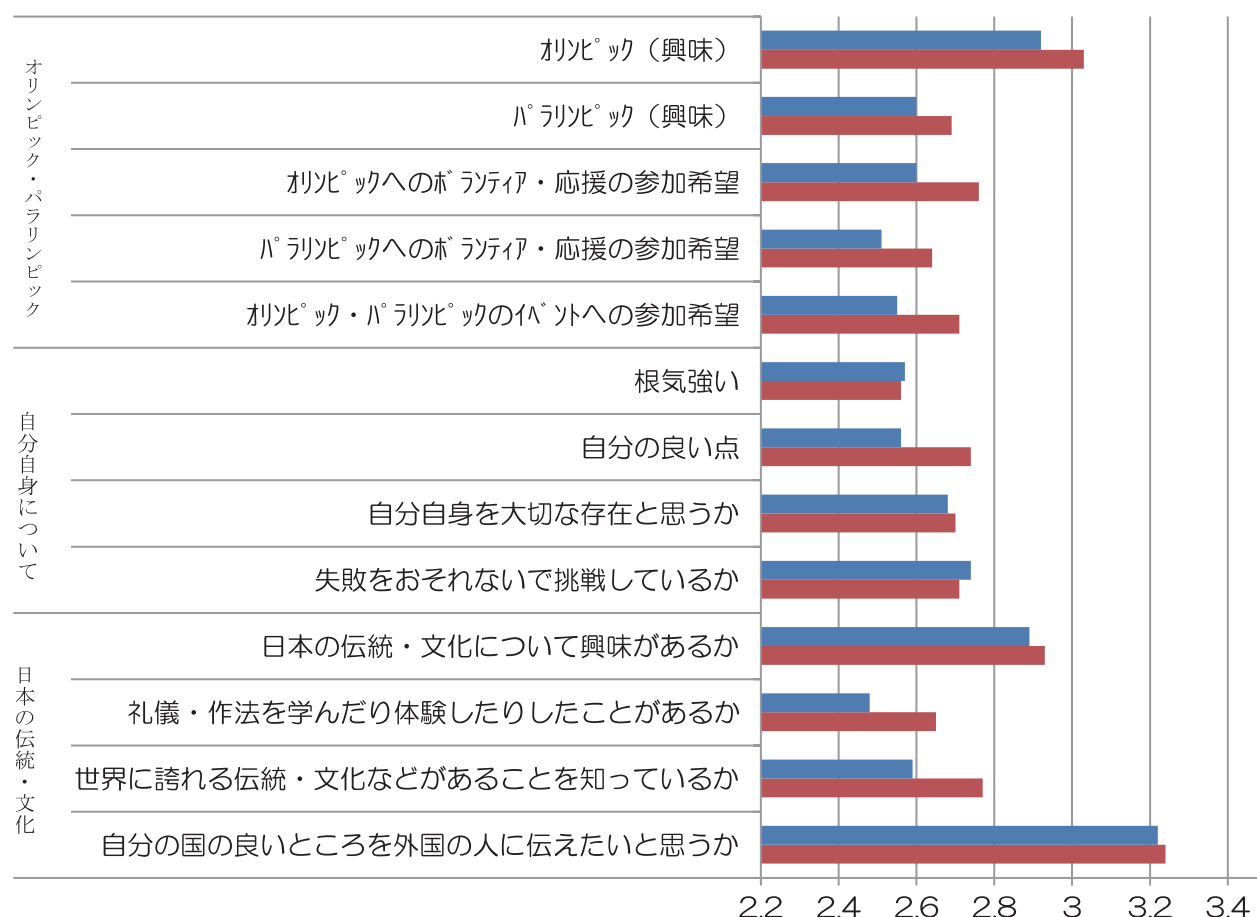
(対象：第1回 2,283名 第2回 1,945名)



- 健康やスポーツに関する調査項目では、第1回と第2回の差が見られない。健康やスポーツに対する意識の向上は、体育授業等オリンピック・パラリンピック教育以外の教育活動の影響も大きいと考えられる。

#### 4 日本人としての自覚と誇りの涵養

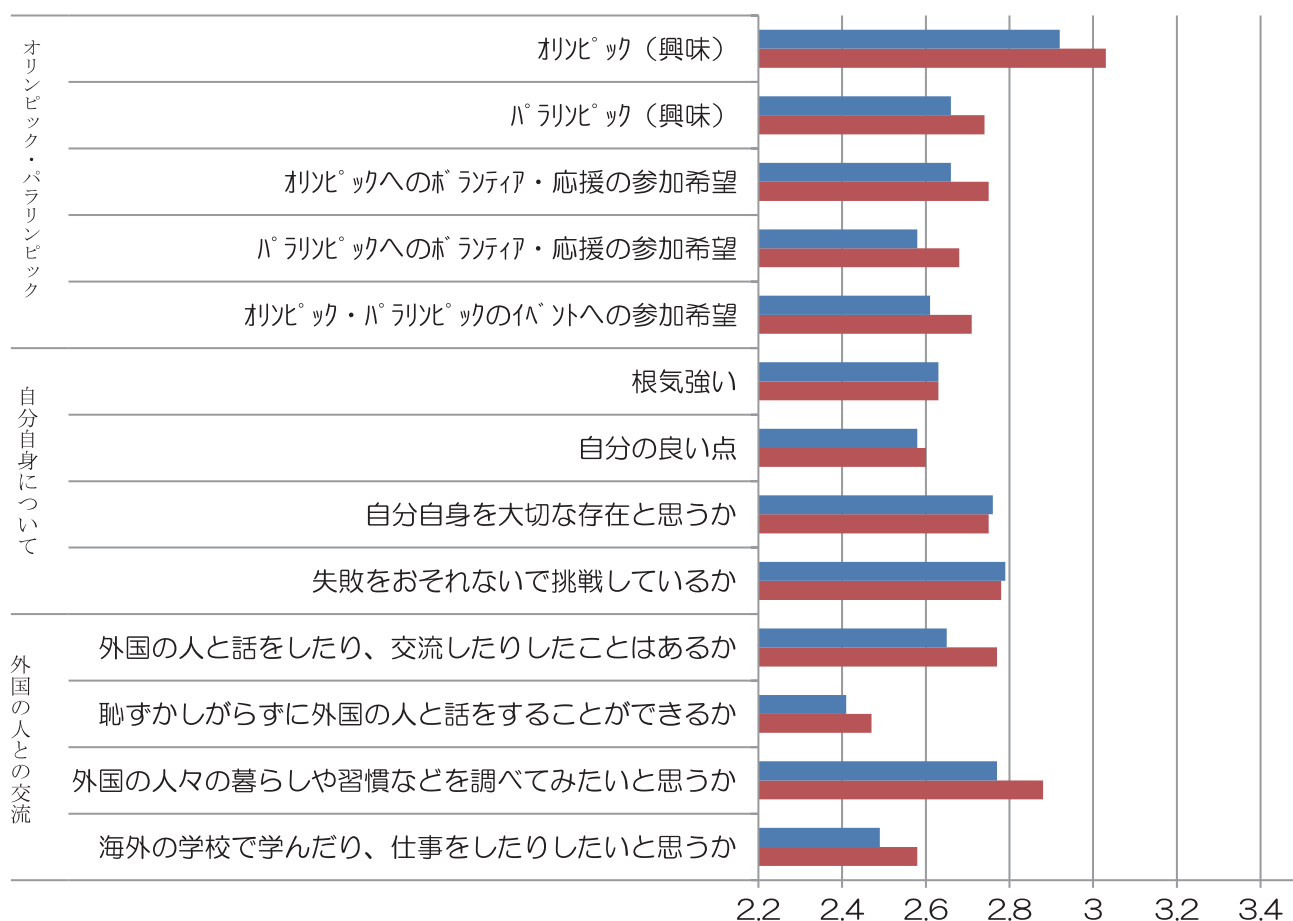
(対象：第1回 1,952名 第2回 1,629名)



- 日本の伝統・文化に関する全ての調査項目で、第2回の値が第1回を上回っている。
- 「礼儀・作法を学んだり体験したりしたことがあるか」、「日本には、世界に誇れる伝統・文化などがあることを知っているか」という問いに対する数値が共に高まっていることから、体験を通して、理解が深まったと考えられる。
- 「自分の国のよいところを外国の人に伝えたいと思うか」との問いに対する数値が高いことから、日本の伝統・文化について理解が深まると、自分の国の良いところを外国の人に伝えたいという意欲が高まると考えられる。

## 5 豊かな国際感覚の醸成

(対象：第1回 2,184名 第2回 2,113名)



- 外国の人との交流に関する全ての調査項目で、第2回の値が第1回の結果を上回っている。
- 「日本人としての自覚と誇りの涵養」に取り組んだ学校では、「自分の国の良いところを外国の人に伝えたいと思うか」の値が高いにもかかわらず、「恥ずかしがらずに外国の人と話をすることができるか」の値が低い。オリンピック・パラリンピック教育と関連付けた外国語活動の実践を奨励し、優れた取組を広めていく必要がある。

### 3 重点的に育成すべき5つの資質について

平成28年度は、全公立学校においてオリンピック・パラリンピック教育推進事業が実施され、各学校で自由な発想による多彩な「4×4の取組」が展開されました。この「4×4の取組」の定着を基に、今後は5つの資質の育成に重点を置いた取組を推進します。

#### 【5つの資質】

##### 1 ボランティアマインド

発達段階に応じてボランティアに関わる取組を継続的・計画的に行い、社会に貢献しようとする意欲や他者を思いやる心を育むとともに、子供たちの自尊心を高めます。

また、障害のある児童・生徒が社会貢献やボランティアに参加できる仕組みを構築します。

##### 2 障害者理解

障害の有無にかかわらず、共に力を合わせて生活できる真の「共生社会」を実現するため、障害者理解の学習・体験や障害者との交流を通じ、多様性を尊重し、障害者を理解する心のバリアフリーを子供たちに浸透させます。

##### 3 スポーツ志向

スポーツへの興味・関心を高め、様々なスポーツを体験することにより、子供たちにフェアプレーやチームワークの精神を身に付けさせるとともに、心身ともに健全な人間へと成長させます。

##### 4 日本人としての自覚と誇り

日本の伝統・文化や最新の技術などを学び、世界に発信する力を育てるとともに、日本人の規範意識や公共の精神等を学ぶことを通じ、子供たちに日本人としての自覚と誇りを身に付けさせます。

##### 5 豊かな国際感覚

世界の多様な国々の歴史や文化を学ぶとともに、留学生や外国人、海外の学校等との交流を促進し、世界各国の人々とコミュニケーションを図ろうとする態度や、豊かな国際感覚を養います。

この5つの資質を重点的に育成するために、優れた取組を実践した学校として、平成28年度はオリンピック・パラリンピック教育重点校を100校指定し、本年度はオリンピック・パラリンピック教育アワード校として136校・園を顕彰しました。

指定された学校は、その取組を更に充実させるとともに、成果を広く普及・啓発することにより、オリンピック・パラリンピック教育を一層推進しています。

### 【5つの資質を伸ばすための4つのプロジェクト】

各学校においては、前述の5つの資質を伸ばすために、以下の4つのプロジェクトを活用することにより、日常的に行っている独自の取組を更に活性化させていくことが大切です。

#### 1 東京ユースボランティア (Tokyo Youth Volunteer)

子供たちのボランティアマインドを育むとともに、自尊感情を高めていくために、発達段階に応じて、ボランティア活動を計画的・継続的に行います。

#### 2 スマイルプロジェクト (Smile Project)

子供たちに、お互いの人格や個性についての理解を深め、自ら主体的に関わる方法を考えさせ、思いやりの心を育成する取組や、障害の有無にかかわらず、相互理解を図る教育を充実・拡大します。

#### 3 夢・未来プロジェクト (Dream/Future Project)

オリンピックやパラリンピアン等のアスリート等を学校に派遣し、直接交流することにより、児童・生徒がオリンピック・パラリンピックの素晴らしさを実感できるようにするとともに、スポーツへの関心を高め、夢に向かって努力したり、困難を克服しようとしたりする意欲を培います。

#### 4 世界ともだちプロジェクト (Global Friendship Project)

様々な人種や言語、文化、歴史などを学ぶことを通して、世界の多様性を知り、様々な価値観を尊重することの重要性を理解するために、大会参加予定国を幅広く学び、可能な限り実際の交流へと深化する活動を行います。この際、これまで地域・学校が築いてきた姉妹都市や姉妹校等のつながりも生かした教育を展開します。

また、留学生が多く、多様な国籍の人々が住み、大使館が集中している等の東京の特性を生かした国際交流も実施します。

## 4 オリンピック・パラリンピック教育における 重点取組の発達段階別指導内容

### 1 ボランティアマインド

|     | 小学校1～3年生                                                                        | 小学校4～6年生                                                                                 | 中学生                                                                                                                                 | 高校生                                                                                                  |
|-----|---------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ねらい | 「身近な人に思いやりをもって接しようとする」<br>・道徳「親切・思いやり」についての学習<br>・幼稚園、保育園等との交流<br>・「あいさつ運動」への参加 | 「周りの人に思いやりをもって役割を果たそうとする」<br>・道徳「勤労、公共の精神」「親切・思いやり」についての学習<br>・地域清掃への参加<br>・「あいさつ運動」への参加 | 「地域に貢献しようという気持ちを持ち、自分にできることに取り組む」<br>・道徳「社会参画、公共の精神」についての学習<br>・地域清掃、地域防災訓練への参加<br>・職場体験との連携<br>・スポーツ大会等へのボランティア参加<br>・地域の夏祭りの運営に参加 | 「社会貢献の意識をもちボランティアに参加する」<br>・学校設定教科・科目「人間と社会」におけるボランティアについての学習<br>・防災訓練への参加<br>・スポーツ大会等へのボランティア活動への参加 |

#### 取組例

### 2 障害者理解

|     | 小学校1～3年生                                                         | 小学校4～6年生                                                                                      | 中学生                                                                        | 高校生                                                                 |
|-----|------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------|
| ねらい | 「障害がある人や高齢者とふれ合う」<br>・道徳「思いやり」について学習<br>・障害者スポーツ体験<br>・高齢者とのふれ合い | 「体験を通して、障害について理解する」<br>・総合「手話、点字」の体験<br>・障害者スポーツ体験<br>・車いす、白杖体験<br>・障害のある方との交流<br>・特別支援学校との交流 | 「障害について理解し、障害がある人と交流する」<br>・パラリンピアンを招へいしての講演会<br>・障害者スポーツ体験<br>・特別支援学校との交流 | 「障害がある人に対して思いやりをもって行動できるようにする」<br>・障害者スポーツ体験<br>・障害者スポーツ大会の運営ボランティア |

#### 取組例

### 3 スポーツ志向

|     | 小学校1～3年生                                                        | 小学校4～6年生                                                                             | 中学生                                                                                                               | 高校生                                                                                                                      |
|-----|-----------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ねらい | 「スポーツに親しむ」<br>・オリンピック、パラリンピアンとの直接交流を通して競技を直接観る。<br>・休み時間を活用した運動 | 「多様なスポーツに触れる」<br>・オリンピック、パラリンピアンとの直接交流を通して競技を直接観る。<br>・大会運営等、スポーツとの多様な関わり方を取り入れた体育授業 | 「スポーツの意義や多様な関わり方を知る」<br>・保健体育「運動やスポーツの役割」について学習<br>・アスリートから直接指導を受ける。<br>・オリンピック、パラリンピック競技種目を実際に体験<br>・小学生とのスポーツ交流 | 「自分にあったスポーツとの関わり方を見つけ、生涯にわたって関わろうとする」<br>・保健体育「スポーツへの関わり方」の学習<br>・外部から講師を招へいしたトレーニングの実施<br>・アスリートからの技術指導<br>・中学生とのスポーツ交流 |

#### 取組例

### 4 日本人としての自覚と誇り

|     | 小学校1～3年生                                 | 小学校4～6年生                                                                     | 中学生                                                                         | 高校生                                                                    |
|-----|------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------|
| ねらい | 「地域の良さを知る」<br>・社会「地域の特産品」について学習<br>・伝承遊び | 「日本のよさを知る」<br>・図画工作等で和紋様の手ぬぐいの作成方法を学ぶ<br>・茶道など日本の文化に親しむ<br>・音楽で和楽器を使った演奏会を鑑賞 | 「日本のよさを学び、外国人に伝える」<br>・伝統的な礼儀作法等の日本の文化を英語で外国人に紹介<br>・家庭の調理実習でだしを理解、和服の着方の学習 | 「日本のよさを深く理解し、多様な方法で外国人に伝える」<br>・体育で武道の履修<br>・スピーチコンテストで日本の伝統・文化のテーマを設定 |

#### 取組例

### 5 豊かな国際感覚

|     | 小学校1～3年生                                    | 小学校4～6年生                                                        | 中学生                                                                      | 高校生                                                                  |
|-----|---------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------|
| ねらい | 「世界の国々について知る」<br>・図画工作「万国旗」を作成<br>・世界の料理の給食 | 「世界の国々の文化等の調べ学習」<br>・世界の国々の文化等の調べ学習<br>・世界の言葉であいさつ<br>・世界の料理の給食 | 「外国の人と交流を体験する」<br>・大使館職員や留学生を招へいしての講演会<br>・修学旅行等での外国人インタビュー<br>・世界の料理の給食 | 「主体的に外国の人と交流する態度を育てる」<br>・海外修学旅行、語学研修等の取組<br>・海外の学校との交流<br>・第二外国語の学習 |

#### 取組例

## 5 実践事例

平成28年度のオリンピック・パラリンピック教育重点校の実践事例を紹介します。

これらの実践事例は、各教育重点校が推進する「重点的に育成すべき5つの資質」別に掲載していますが、それぞれにおいて効果的なオリンピック・パラリンピック教育の実践についても触れています。

### ＜ボランティアマインド 16事例＞

- ・ 防災、清掃活動、挨拶運動、商業施設のイベント参加等、自治体や地域の団体等と連携した取組が多い。
- ・ 事前学習、体験学習、事後学習の組み合わせによって更に効果が期待できるため、事前、事後を視野に入れた体験学習計画を立案する。

### ＜障害者理解 16事例＞

- ・ 講演、パラスポーツの体験を通じた取組が多い。
- ・ 他者理解という観点から、共生社会の実現に結び付けると考えやすい。
- ・ 単発の取組になりがちだが、教科を横断した事前、事後学習で、より理解の深まりが期待できる。

### ＜スポーツ志向 4事例＞

- ・ 日常の教育活動の中に、活動をいかに取り込んでいくかがポイントとなる。
- ・ 成果発表の場を設定することにより、意欲的な取組の継続が可能となる。

### ＜日本人としての自覚と誇り 5事例＞

- ・ 日本固有の文化についての学習や、おもてなしの精神など日本の伝統的なマナー等を学ぶ取組が多い。
- ・ 学んだ事を、どのように発信していくかという一連のプロセスを、教科を横断したカリキュラムで実施する。

### ＜豊かな国際感覚 3事例＞

- ・ 学校や地域の特色を生かし、交流の場面を設定する等が考えられる。
- ・ インターネット等を活用し、他国の学校と直接交流事も可能である。
- ・ 外国人旅行者の増加を念頭におき、世界に通用する日本人の育成という大きな視野をもつ。

## 実践事例① 墨田区立言問小学校

### 1 取組・活動名

「ブラインドサッカー体験」

### 2 取組・活動のねらい

- パラリンピック競技大会を支える人々の活動について学び、ボランティアマインドの醸成を図る。
- パラリンピアンとの交流を通して、視覚障害者への理解とパラリンピック競技への興味をもたせる。

### 3 教育課程上の位置付け

「総合的な学習の時間・4時間」

### 4 実施上の工夫

- ・ パラリンピアンには「なぜこの競技をしようと思ったのか」「どんな気持ちで競技をしているか」などを話してもらった後、児童と一緒にブラインドサッカー体験をする。
- ・ ボランティア・スタッフの方には、「パラリンピックについての説明」「スタッフとしてどんなことをしているか」などを話してもらう。
- ・ ブラインドサッカー体験の前に、ボランティア・センターの方を呼び、学年に応じて体験活動や思いやりの心を育む活動を行った。

6 学年 認知症サポーター講座

5 学年 ガイドヘルパー体験

4 学年 点字作成体験

3 学年 手話体験

### 5 本取組・活動の内容



#### 「パラリンピアンサポートスタッフの講演」

- ・ ボールの位置をどのように教えてあげたらよいか等の説明をしてくれた。
- ・ 体験者は両手を組んで方向を示し、周りの人は拍手の大きさで教える。声よりも拍手の方がいいということが分かった。



### 「パラリンピアンの実技指導」

- ・ パラリンピアンと一対一でボールの取り合い、シュートゲームに挑戦した。
- ・ パラリンピアンは、ボールの中に入っている鈴の音をたよりにプレーをしていたが、まるで足にボールが吸い付いているようだった。



### 「ガイドヘルパー体験」

- ・ 友達と交代しながら、ガイドヘルパーを務め、校内を案内した。
- ・ 階段が始まる場所、終わる場所、曲がる場所、どこの教室の前を歩いているのかなどを説明した。
- ・ コミュニケーションをとることの大切さを学べた。

## 6 成果

- ・ パラスポーツへの興味や関心が高まっただけでなく、パラスポーツを支える方々がどのようにしてパラリンピアンを支えているのかを知り、ボランティアについて考えることができた。
- ・ パラリンピアンの方が障害を乗り越えて取り組む姿を知り、スポーツを通じた学習から、児童自身が今後も活躍の場を広げようとする意欲を向上することができた。
- ・ 様々な福祉体験を体験することで、障害の種類に関係なく、それぞれの立場になって考える障害者への理解力が養われた。
- ・ 実際に障害者の方々の立場になった体験や、それを支えるボランティア体験を通して自分に何ができるかを考える機会がもてた。

## 実践事例② 大田区立大森第五小学校

### 1 取組・活動名

「ブルートライアングルプロジェクトへの積極的な参画」

### 2 取組・活動のねらい

- 行政（大田区）・地域と連携して、「蝶の舞う素敵な街おおた」を目指し、隣接した広大な公園（平和の森公園）でのボランティア活動や飼育栽培活動を通して、児童の豊かな心の育成に取り組み、持続可能な社会を形成するための参画意識を育てる。

### 3 教育課程上の位置付け

「理科、総合的な学習の時間、生活科・各学年 8 時間」

### 4 実施上の工夫

- ・ ブルートライアングル(和名アオスジアゲハ)はクスノキ(大田区の木)を食草とし、ランタナ(帰化植物)や、ヤブガラシ(雑草)を吸蜜植物とする欧米では大変人気のある蝶である。
- ・ 本校に隣接している公園はクスノキの圃場として整備されているので、数は少ないが従来からアオスジアゲハは本校に飛来していた。大田区は平成26年度からその公園にバタフライガーデンを整備するなどして、オリンピック・パラリンピック施策の一つとしてブルートライアングルプロジェクトに取り組んでいる。
- ・ そこで、従来から取り組んでいる地域環境を生かした教育活動に、ブルートライアングルプロジェクトへ積極的に参画することを加え、より児童の豊かな心の育成を図ることにした。

### 5 本取組・活動の内容

#### 「年間活動計画」

| 月  | 取組の具体的内容             | 月   | 取組の具体的内容          |
|----|----------------------|-----|-------------------|
| 5月 | クリーンアップ大作戦<br>クスノキ調査 | 9月  | お花畑整備 クスノキ整備      |
| 6月 | 卵の採取 飼育              | 10月 | 卵の採取 クリーンアップ大作戦 2 |
| 7月 | 夏羽化 お花畑づくり           | 11月 | 秋羽化 飼育            |
|    |                      | 12月 | 越冬さなぎの保護活動        |





### 「活動の概要」

- ・ 隣接する広大な公園（平和の森公園）を、生活科で活用するだけでなく、縦割り班活動でのクリーンアップ活動、クラブ活動での季節遊びクラブ、体育での持久走大会、国語の野外創作活動（短歌・俳句・詩等）や朗読発表会など豊かな自然を活用した教育活動が本校では日常的に行われている。
- ・ この公園の大きな木はすべてクスノキであり、そのクスノキを食草にしているのがブルートライアングル（アオスジアゲハ）である。



### 「観察の様子」

- ・ ブルートライアングルの産卵・孵化・脱皮蛹化・羽化等の瞬間を観察することが全学級でできた。児童はブルートライアングルに大変興味を示し、主体的に活動することができた。
- ・ 羽化したブルートライアングルは児童の手や腕、指に止まり、飛べる状態になるまで、羽を乾かし、大空へ放蝶するまでじっとしている。

## 6 成果

- ・ 平成28年度はブルートライアングルを年間で約80頭羽化させ、校庭から大空に放蝶した。成果指標はチョウの羽化を観察できた児童の割合として、児童アンケート(12月末)では蝶の羽化を直接観察できた児童の割合は62.4%であった。当初予想していた以上の子どもたちが羽化を直接観察でき、生命の大切さを実感させることができた。
- ・ また、ブルートライアングルを愛おしみ、命の終末に直面しても生命として受け入れるようになった。しかし、ブルートライアングルの食草であるクスノキは高木が多く、吸蜜植物であるランタナ、ヤブガラシのお花畑整備を短期間で行うことは難しかった。
- ・ 学校職員が採取した幼虫を児童に与えることで成立した取り組みであるので、児童が主体的に活動できるようにするためには、環境の整備と安全の確保が不可欠である。そのためにはより行政（大田区都市基盤整備部・同区観光・国際都市部・同区教育委員会）との連携を強めることが大切であると考えている。

## 実践事例③ 渋谷区立笹塚小学校

### 1 取組・活動名

「ささリンピック・コーディネーショントレーニングの充実・おもてなしの心の育成」

### 2 取組・活動のねらい

- 様々な運動を経験し、運動の楽しさを味わうことで運動の日常化を図ることができるように、毎週火曜日の中休みに「ささリンピック」と称して、全校児童が一斉に運動に取り組む体育的活動を始める。
- 体育授業の改善を目指し、コーディネーショントレーニングを中心とした校内実技研修の充実、学習形態・場の工夫や掲示物・学習カードを活用した体育学習を実施する。
- 「表情」「態度」「身だしなみ」「言葉遣い」「挨拶」のマナーの基本5原則をしっかり意識できるように生活指導目標を設定したり、「分離礼」を日常生活に取り入れたりして「おもてなしの心」の育成を目指す。

### 3 教育課程上の位置付け

「体育、道徳、業間体育」

### 4 実施上の工夫

- ・ ささリンピックにおいては、本校の苦手傾向にある新体力テストの種目の向上につながる運動を扱う。1つの運動に偏ることなく、バランスよく行うために、定期的に内容の精査をし、扱う運動を変更していく。また、「楽しく運動する」ことが一番のねらいであるので、必要以上の専門的な指導は行わない。
- ・ コーディネーショントレーニングのみで単元構成するのではなく、全ての領域において補強運動として扱い、毎時間の積み重ねで児童の体力向上を目指す。また、扱うコーディネーショントレーニングの内容については、学習する領域に関連する運動を選択する。
- ・ 講師監修のマナーに関するDVDを活用した学習を行う。また、講師招へい、生活指導目標の項目の精選、全校朝会で全児童による分離礼など実践の機会を設定する。

## 5 本取組・活動の内容



- ・ 毎週火曜日の中休みに全校児童で3種類の運動（1～3年生は立ち幅跳び、全力走、ラダートレーニング、4～6年生は走り幅跳び、5秒間走、ラダートレーニング）に取り組む「ささリンピック」を行った。
- ・ 体育の学習で毎時間、コーディネーショントレーニングを行う時間を設定し、自分の体を意図をもって操作する経験を積み重ねる。
- ・ これらの2つの活動を、年間を通して行うことで児童の運動の日常化・体力の向上を目指した。



- ・ 元国際線客室乗務員のマナー講師を招へいし、「おもてなしの心」についての学習を行った。
- ・ また、学校行事である挨拶キャンペーン、全校朝会での分離礼など、学んだことを実践する機会を設定した。
- ・ そのようにすることで、「おもてなしの心」の実践力を身に付けることができた。

## 6 成果

- ・ 「ささリンピック」を行い、（取組開始から3年目）運動の日常化を目指したことで多くの児童が外に出て遊ぶようになり、遊ぶ内容も多様になった。また、新体力テストの結果も第4学年を除いて全ての学年において渋谷区・東京都平均の体力合計点を上回った。
- ・ コーディネーショントレーニング、マット運動、跳び箱運動などの校内実技研修の開催や、体育授業に関する学習資料の配布、体育授業におけるOJTを行うことで、学習過程や運動量の確保に工夫が見られるようになり、指導力の底上げを図ることができた。
- ・ マナー講師による「おもてなしの心」に関する学習を通して、児童は挨拶の意義を理解したうえで挨拶をするようになり、校内で分離礼や立ち止まって挨拶できる児童が増えてきた。また、マナーの基本5原則と生活指導目標を関連付けることで、子供たちの「相手意識」が高まり、以前よりも増して落ち着いて学校生活を送ることができるようになった。

## 実践事例④ 荒川区立ひぐらし小学校

### 1 取組・活動名

「あいさつし隊」

### 2 取組・活動のねらい

- 児童一人一人が学校・地域の一員であるという意識をもって生活できるようにする。
- 社会に貢献していこうとする気持ちを育む。

### 3 教育課程上の位置付け

「登校時間帯（課外）及び学級活動・常時活動」

### 4 実施上の工夫

- ・ 挨拶の意義や形について指導し、理解を図る。
- ・ 一体感をもって活動するために、ボランティア活動の時にはタスキを掛ける。
- ・ 取組の成果を実感できるように、カードへ記録する。
- ・ あいさつ運動の活性化を図るために、全学級を一週間ずつ割り当て、あいさつ運動週間として活動する。
- ・ 毎朝の活動に積極的に取り組めるよう、校長・教職員が毎日校門に立ち、率先してあいさつ運動を行う。

### 5 本取組・活動の内容

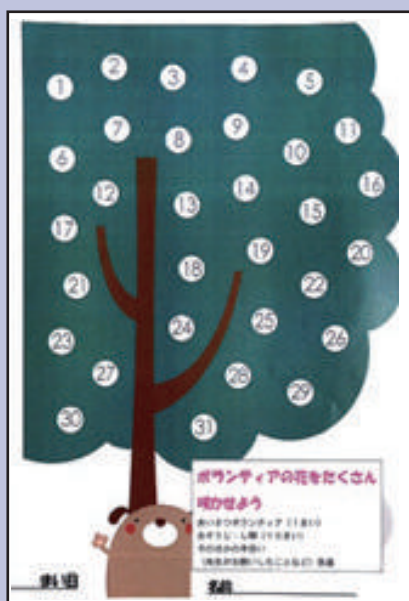


- ・ 登校時間帯の15分間、子供たちが正門を中心に学校に沿って並び、登校する友達や、通勤通学途中の地域の方々に挨拶をしている。
- ・ できる時にできる範囲で参加し、数分間の参加でも歓迎しており、多い日には80名を超える子供たちが並ぶ。
- ・ 自らの意志で参加する活動であることから、挨拶ボランティア「あいさつし隊」と呼び、あいさつ運動週間を設けて各学級が輪番で立つ日を設定して全員に体験させることで、活性化を図っている。



- ・ ひぐらし小学校では、挨拶の際に「分離礼」を指導している。相手をしっかり見て挨拶の言葉を伝えてからお辞儀をする挨拶の仕方で、より丁寧に、心を込めることの大切さを意識できるようにするためである。
- ・ あわせて、「挨拶とは相手に心を開き、近付くことである」という挨拶のもつ意味を学び、振る舞いの意味を理解することで挨拶を大切にしている意識がより高まると考え、全校朝会や授業の号令の挨拶に加えて「あいさつし隊」の活動でも丁寧な挨拶の指導を心がけている。

と考える、全校朝会や授業の号令の挨拶に加えて「あいさつし隊」の活動でも丁寧な挨拶の指導を心がけている。



- ・ ひぐらし小学校では、自分で考えて行動した活動の記録を、目に見える形で残す取組をしている。
- ・ 「ボランティアの花」と題して、カードに記録し、ボランティアの花が満開に咲く頃には、ひぐらし小学校・日暮里の地域に温かい思いやりの心が溢れるというゴールイメージを描くことを意図している。
- ・ 毎朝の「あいさつし隊」と、月に1度、地域の日暮里駅前の掃除に行く「おそうじし隊」、その他にも自分にできることを考え、目標をもって取組を続けられるように工夫している。

## 6 成果

- ・ 「自分から挨拶をしたときに、地域の人から挨拶が返ってくる」体験を通して、気持ちが通じる心地よさや進んで活動する気持ちよさを実感することができた。また、挨拶の大切さを実感することができた。
- ・ ボランティア活動に参加することで、学校や地域を自分たちで作っていかうとする意識をもつことができた。
- ・ あいさつ運動に全校で取り組むことで、学校全体が一つにまとまる一体感を感じることができた。
- ・ 活動した記録を目に見える形に表すことで、児童一人一人の意欲を高め、達成感を味わうことができた。

## 実践事例⑤ 連雀学園三鷹市立南浦小学校

### 1 取組・活動名

「小学校第6学年 外国語活動・Turn right. 道案内をしよう」

### 2 取組・活動のねらい

- 特別な環境ではなく、身近な場所を想定した。
- 豊かな国際感覚を育むために、世界各国の文化を理解し、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を目指した。
- コミュニケーション能力を育成するために、「身近な観光スポットの紹介」をテーマに、既習内容の活用や、英単語に加えてジェスチャーを交えた会話を取り入れた。

### 3 教育課程上の位置付け

「外国語活動・6時間」

### 4 実施上の工夫

- ・ 本授業の第1時～第3時は、『Hi, friends!2』、第4時～第6時は、『WELCOME TO TOKYO』を活用し、授業を進めた。オリンピック・パラリンピック教育にも繋がるよう、より現実的なコミュニケーションを意識して取り組む内容とした。
- ・ 『WELCOME TO TOKYO』の「Topic 1 行き先を案内しよう!」を活用し、外国人観光客がどのような場所に行きそうであり、どのような質問をするかということを考えさせる。その上で、案内の方法や迷わないための手立てを考え、児童同士で意見交換や話し合いを行った。
- ・ 案内する場所を知っている児童同士で行うのではなく、知らない相手(今回は、参観された先生)と行うことで、伝えることの難しさ、伝えたいという意欲を高めた。
- ・ 実際に町を想定した場や看板を作り、説明する相手を知らない人にすることで、より現実に近い形で、体験的授業を行うことができた。また、相手に伝えることの難しさ、行き先にたどり着くまでの何気ない会話や、町の紹介をしながら歩くという設定を行ったことにより、相手への思いやりの気持ちを育むことができた。

### 5 本取組・活動の内容



#### 「導入」

- ・ 身近な観光スポットを紹介するために、紹介する物や施設、店を復唱したり、フラッシュカードで確認したりする。
- ・ 道案内をする上で、必要な表現（「Go straight.」「Turn right.」）の復習をする。



### 「先生によるデモンストレーション」

- ・ 先生とALTによるデモンストレーションを行い、活動の仕方を知る。
- ・ 道案内をするにあたり、会話の表現や相手をもてなす行動について考えさせる。
- ・ ただ道案内をするだけでなく、行き先までの間にある有名な店や、互いの好きな食べ物などについても会話しながら紹介させる。



### 「道案内の活動」

- ・ グループごとに外国人役の先生に向けて、道案内の活動をする。「May I help you?」「Where do you want to go?」などと声をかけて活動を開始する。道案内する途中では、有名な店の紹介や外国人との会話を楽しみながら案内する。
- ・ 案内後、観点に沿って振り返りを行う。

## 6 成果

- ・ グループで活動したため、必要な語句や話し方、関わるときの注意点、相手への気遣いなどについて意見交換をし、考えを深めていくことができた。
- ・ 外国人役を立てることで、より実際の場面を想定した活動となった。また、今回は、普段接したことのない大人と活動することで、より現実的な活動となり、学習を深めることができた。
- ・ 自分の地域を紹介することで改めて地域の良さを考え、郷土愛を育むことができた。
- ・ 「Good communication」の評価ポイントを見童と確認し、外国人役に共通理解をして行うことで、ねらいが達成できたか明確に振り返り、次回に生かす内容となった。
- ・ 「道案内」という活動を英語で行うことで、東京2020大会に向けて具体的なボランティアのイメージをもたせることができた。
- ・ 東京2020大会に向けた授業は、日常での相手を思いやることやコミュニケーションとも密接に結び付き、よりよい集団作りにも役立つことが分かった。

## 実践事例⑥ 小平市立小平第十二小学校

### 1 取組・活動名

「仕事について考えよう」 ～ みんなのために ～

### 2 取組・活動のねらい

＜事前＞

- 小平市役所との連携授業やゲストティーチャーによる「おもてなし講座」などを通して、働くことの意義や楽しさについて知り、周囲の人々の役に立とうとする心情を育てる。

＜職業体験＞

- 日頃のたてわり班活動で養っているリーダー性、高学年としての思いやりを幼稚園職業体験を通して、さらに力を伸ばす。
- 今まで学んできた、「おもてなし」（挨拶の仕方や礼儀、態度）の気持ちを幼稚園職業体験に生かす。

＜事後学習＞

- 事前学習や職業体験を通して培ったボランティアマインドを基に「自分ができること」、「人の役に立てること」を考えることを通して、自主的に実践しようとする意欲や態度を育てる。

### 3 教育課程上の位置付け

「総合的な学習の時間・8時間」

### 4 実施上の工夫

- ・ 既習事項（おもてなしの学習など）を意識させて、単元の指導を進めていった。
- ・ 事前学習において、幼稚園だけに視点を置くのではなく、職業全般に目を向けさせ、仕事に対する関心や勤労意識を高めていけるよう指導を進めた。
- ・ 市役所の行政経営課、保育課との連携授業、大学教授による「おもてなし講座」など現場で働く方や専門家から直に話を伺う交流の場を設定し、その方々の思いや姿勢から前向きな勤労観を育てた。
- ・ 近隣の幼稚園と連携し、職業体験の場を設定して、幼児や先生と触れ合う中で、働く楽しさややりがいを感じられるよう配慮し自己有用感の育成を図った。
- ・ 事前学習・職業体験・事後学習を「勤労・奉仕」に視点を当てて指導内容を設定し、ボランティアマインドの醸成につながるようにした。

## 5 本取組・活動の内容



- ・ 「小平市役所 行政経営課」と連携した授業を第6学年で実施し、市役所の方々の仕事内容について学習した。また、仕事で大変なことややりがいなどについても詳しく話を聞き、働くことに対する考え方をより深めることができた。この授業を、下記の取組の導入として設定した。
- ・ 「小平市役所 保育課」と連携した学習を実施した。幼稚園や保育園では、一日どのような流れで仕事が行われているのかを詳しく知った。また、教育、保育現場では、どのような課題を抱えているのか、子育ての現状などについても話をしてもらい、自分たちがそのような課題に今後どのように関わっていけるのかを考えた。

.....



- ・ 地域の幼稚園と連携した職業体験を実施した。当日までに学んできた、「おもてなし」(挨拶の仕方、礼儀、態度)の心を存分に生かすことができた。
  - ・ また、実際に自分たちが働くことで、保育課との連携授業で学んだことを実感するとともに、仕事の大変さや楽しさなどについて感じることもできた。その他にも、「ラーメン店」と連携した授業も行い、さらに働くことの意義や楽しさなどについて理解を深めることができた。
- ・ おもてなしの学習や職業体験に向けての事前学習、職業体験、ラーメン店と連携した学習などを通して、人々の役に立とうとする心情を育て、様々な知識を身に付けることができた。それを普段の生活や将来に生かしていけるよう、事後学習として、卒業前に学校のみんなのためになることを考え、6年全員でそれを実践した。また、卒業式では、それらを踏まえ、一人一人が将来の夢について語った。
- ・ このように、キャリア学習とつなげた「ボランティアマインドを醸成」するための取組を実践した。

## 6 成果

- ・ 事前に学習した「おもてなし」について存分に生かすことができた。
- ・ 職種について重点をおくのではなく、仕事に重点をおいて指導を重ねていくことで、勤労に対する幅広い知識や考え方を知ることができた。
- ・ 職業体験で実際に働くことを通して、勤労・奉仕の精神を醸成することができた。
- ・ 周囲の人々の役に立つことの意義やその良さについて実感を通して、学ぶことができた。

## 実践事例⑦ 多摩市立豊ヶ丘小学校

### 1 取組・活動名

「道徳授業地区公開講座」

### 2 取組・活動のねらい

- 「親切・思いやり」「勤労・公共の精神」の授業、全校集会を通して、「ボランティアマインド」を醸成する。
- 「ボランティアマインド」を醸成するための授業、全校集会、意見交換会を通して、道徳授業や子どもの心の成長について、保護者・地域の方の理解を深める。

### 3 教育課程上の位置付け

「道徳・2時間」

### 4 実施上の工夫

- ・ 「ボランティアマインド」について考えるために、各学年2学級のうち「親切・思いやり」と「勤労・公共の精神」を題材にした授業を1学級ずつ行うとともに、全校集会では、互いの授業や他学年の授業内容について知ることができるような工夫をした。
- ・ 事前に全校児童、保護者のアンケートを取り、その集計結果を基に児童と保護者の結果の違いを明らかにしながら、児童の意識と道徳的实践力について考えることができるようにした。

### 5 本取組・活動の内容



- ・ 本校では、毎年テーマを決めて道徳授業地区公開講座を実施しているが、平成28年度は、オリンピック・パラリンピック教育を推進していく観点から「ボランティアマインド」の醸成をテーマに取り組んだ。
- ・ 各学年「親切・思いやり」と「勤労・公共の精神」を題材にした授業を1学級ずつ行った。4時間目に実施した全校集会では、各学級の授業内容や、授業をとおして出た児童の考えを紹介し、「ボランティアマインド」についての様々な考え方を感じられるようにした。
- ・ 引き続き実施した保護者・地域との意見交換会では、学校の道徳や道徳授業で取組を紹介したり、アンケート結果を基に児童と保護者の意識を比較したりすることで、児童の成長や道徳的实践力について考えた。

## 他の「ボランティアマインド」を醸成する取組

### <熊本地震へのお見舞いの募金>

- 平成28年1月16日～17日に行われた「第4回緑の財団復興支援シンポジウム」に参加した児童から、同シンポジウムに参加していた熊本県南阿蘇村立久木野小学校の友達の手になりたいたと声上がり、児童会運営委員会が取りあげて全校に呼びかけて実施した。3日間で6万5千円が集まり、久木野小学校に届けた。

### <児童会主催“届けよう 服のチカラ”プロジェクトへの参加>

- 難民キャンプの子供たちに服を届ける「“届けよう 服のチカラ”プロジェクト」に参加して3年目になった。平成27年度は近隣の中学校の生徒会にも協力を仰ぎ、平成28年度は近隣の保育園にも協力を呼びかけた。本校の分だけでも千着以上集り、3校園で段ボール32箱を送った。



中学校へ回収箱を持っていく



熊本地震募金

### <エコキャップ、アルミ缶・スチール缶のリサイクル>

- 児童会の呼びかけで、ペットボトルのふたを回収する「エコキャップ」や、スチール缶・アルミ缶を回収して資源のリサイクルをする取組を行った。玄関に専用の回収箱を用意し、たまったら大きな袋に入れ保管した。



エコキャップ  
7月に145kg搬出

### <子どもボランティアへの参加>

- 青少年問題協議会主催の地域清掃は、毎年、多くの児童が参加して学校近くの草地の草刈りを行っている。子供たちは、大人が刈った草を運び袋に詰める役を担っている。
- 地域のニュースポーツ大会では、得点を記録したり、ボールを拾ったりして運営の手伝いをしている。平成28年度は26名の子どもボランティアが活躍した。
- 児童館まつりのボランティアでは4年生がクレープとスーパーボールすくいのお店の運営を行った。
- 地域最大の行事であるどんど焼きでは、朝から、篠竹取り、竹洗い、薪集め、焼くお飾りの分別、灰を埋める穴掘りなど、大人と一緒にたくさんの「子どもボランティア」が地域行事に主体的に参加した。

### <落ち葉拾い>

- 毎冬、児童たちが毎日使っている遊歩道に積もった落葉を集め、清掃をしている。短時間の作業だが、驚くほどたくさんの落葉を集めることができる。校庭の落葉と合わせて、腐葉土づくりに適したケヤキやコナラなどの落葉は、堆肥づくりの箱に入れて腐葉土にする。できた腐葉土は、各学年の花壇・畑に使っている。



落ち葉拾い

## 6 成果

- 児童が、道徳授業地区公開講座を通して、たくさんの人が「ボランティアマインド」をもってそれぞれの活動をしていることを知ることができた。また、「ボランティアマインド」の根底にある「親切」や「思いやり」について理解を深めることができた。
- 学校の様々な活動が「ボランティアマインド」と関連していることを教員が意識したことで、継続的・系統的に「ボランティアマインド」について、指導していくことができた。
- 児童が感謝の気持ちをもって地域の方々と接することで、「自分もできることをやりたい」という気持ちを高めることができた。この結果、地域行事へ参加する児童数、地域行事への児童ボランティアへ参加する児童数が増加した。

## 実践事例⑧ 港区立御成門中学校

### 1 取組・活動名

「ボランティアマインドの醸成」

### 2 取組・活動のねらい

- 周囲を思いやる心や感動する心を持ち、周囲と豊かな関係を築ける生徒の育成
- 自分に自信を持ち、目標に向かって努力できる生徒の育成
- スポーツに親しみ、自らの健康や体力の向上に取り組む生徒の育成
- 日本及び他国や地域を理解し、自ら学び行動できる国際感覚をもった生徒の育成
- 社会に貢献しようとする意欲をもった生徒の育成

### 3 教育課程上の位置付け

「総合的な学習の時間・各学年 9 時間程度」

「特別活動・3 時間」

### 4 実施上の工夫

- ・ 地域との連携を重視する。
- ・ 地域の行事や地域社会を「支える」活動への参加を通し社会貢献の心を育む。
- ・ 教科の学習を通し、地域を知り、守りたい、残したいと実感させる。
- ・ 既存の活動の充実を図る。
- ・ 「対話力」を高めることで、深い学びのできる生徒の育成を図る。

### 5 本取組・活動の内容



#### 「落ち葉掃き」

- ・ 例年より早く、10月末から落ち葉掃きを実施した。
- ・ これまでは、生徒会が中心だったが、今年は、1年生のあるクラスから自主的に始まり、それに誘われるかのように落ち葉掃きの輪が広がっていった。
- ・ 雨天や冷え込みの厳しい日もあったが、朝の20分、しっかりと活動が続けられた。
- ・ 近隣の会社の方も声をかけてくれたりと、温かい目で見守ってくれた



### 生徒会「交通安全運動」

- ・ 春・秋の全国交通安全週間に合わせ、愛宕警察署の方と一緒に、御成門交差点に立った。はじめは、秋の交通安全運動週間だけでしたが、28年度からは、春の交通安全運動期間も行っている。
- ・ 登校してくる御成門中学校の生徒だけでなく、連携校の御成門小学校の児童や地域の方々に対しても、交通安全を呼びかけた。



### 図書委員会による 「地域での読み聞かせ会」

- ・ 今年度は、神明中高生プラザ、愛宕保育室の2か所で実施した。
- ・ 聞いている子供たちの「輝いた目」が印象的であった。
- ・ この活動に、図書委員以外の生徒が、自主的に参加するようになり、そして、この活動がきっかけとなって、新たに地域と連携して防災紙芝居の読み聞かせを行うことになった。

## 6 成果

- ・ 共生社会の構成員となる子供にとって必要不可欠な資質である「社会に貢献しようとする意欲」や「他者を思いやる心」という資質を身に付けることができた。
- ・ 地域との連携を重視し、地域の行事や、地域社会を「支える」活動への参加を通して生徒の社会貢献の心や、社会参画の精神を育み、ボランティアマインドの醸成に結び付いた。
- ・ 生徒は身近な文化財や自然、建築物、商店街や地域の行事など、様々なものを「残したいもの・守りたいもの」として挙げた。個人、クラスや学年、あるいは学校全体で、皆で力を合わせて残し守るために、自分たちが何をすればいいのかを考える活動から、地域社会を「支える」活動への参加意欲が育まれ、ボランティアマインドの醸成につながった。
- ・ ボランティアマインドの醸成により生徒の自尊感情（自己肯定感）が高まり、「主体的・対話的で深い学び」のできる生徒の育成につながった。

## 実践事例⑨ 港区立小中一貫教育校お台場学園

### 1 取組・活動名

「防災Jr.チーム活動」

### 2 取組・活動のねらい

- 港区総合防災訓練への参加を通して、防災知識、技能及び行動の仕方について学ぶことにより、地域へ貢献しようとする児童・生徒の育成

### 3 教育課程上の位置付け

「総合的な学習の時間・6時間」

### 4 実施上の工夫

- ・ 港区総合防災訓練の実施に向けて事前に消防署や地区総合支所、地区防災協議会等と連携・協力する。
- ・ 災害発生時にどのような活動が必要か、また役割について事前に確認する。
- ・ 体験活動中は幼児や小学生が参加するため、各班でサポートをしながら配慮した行動をとるよう指導をする。
- ・ 児童・生徒に対し知識・技能の上達を認めたり、声掛けをしたりする。

### 5 本取組・活動の内容



#### 「搬送・誘導班の活動」

- ・ 搬送・誘導班の活動は、消防署の方から、簡易担架の組み立てやけが人の搬送の方法を学んだ。また、簡易トイレの設置方法やリヤカーの取り扱いも学んだ。
- ・ 当日は、傷病者に見立てた人形を使い、簡易担架を組み立て、安全な場所まで搬送する訓練を行った。



### 「消火班の活動」

- ・ 消火班は消火器の取り扱いや、消火訓練、D級消火ポンプの取り扱いを学んだ。
- ・ 消火器の操作方法については、中学生が小学生や地域の方々に説明を行った。その後、参加者は、実際に消火訓練を実施した。
- ・ 訓練当日は、消火班の代表生徒が実際の火災現場でも使用するD級消火ポンプで消火訓練を行った。



### 「食糧班の活動」

- ・ 食糧班の活動では、ガスバーナーを設置してお湯をわかし、アルファ化米が入った箱にお湯を入れて、炊き込みご飯を作った。その後、防災訓練の参加者のために、1人分ずつパックに詰めて配布した。

## 6 成果

- ・ 児童・生徒は、班の活動内容を理解し、港区総合防災訓練で自主的に活動することができた。
- ・ 中学生が、小学生に消火方法や救命活動を教えることで、人の役に立つことの意義を感じ取ることができた。
- ・ 6月に行ったアンケート調査と比較すると、「人の役に立ちたいと思いますか」という項目で、「とても思う・思う」の割合が、事前61%から事後91%となり増加した。

### 1 取組・活動名

「生徒会主催のボランティア活動」

### 2 取組・活動のねらい

- 生徒会の自治的活動に参加することを通して、互いに協力して改善・向上を図ろうとする実践力を高める。
- 社会におこる問題や課題に関心をもち、自主的・自発的に解決していこうとする態度を育てる。
- 多様な活動を体験する中で、自らの存在を実感し、共に支え合う社会の実現に向けて寄与する姿勢を身に付ける。

### 3 教育課程上の位置付け

「特別活動・5～7時間程度」

### 4 実施上の工夫

- ・ 生徒総会においてボランティア活動の実施が承認されたことを重視させ、ボランティア活動が共通の方針の下、協力して行う活動であることを認識させた。
- ・ 生徒が参加しやすい雰囲気や環境をつくった。ポスターを掲示したり、朝礼や放送で呼びかけたりした。
- ・ ボランティア活動は一人一人の自由意志に基づく主体的・自発的な活動であり、強制はしない。そのため、朝、放課後、休日に実施している。

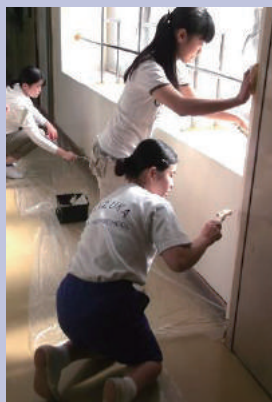
### 5 本取組・活動の内容

#### 「地域公園清掃」

- ・ 毎週水曜日登校前の7時50分から8時10分まで、考査や行事などのある週は除いてほぼ毎週、学校周辺の道路や学校近隣の公園を清掃している。
- ・ 7時45分ボランティアに参加する生徒が玄関に集合し、生徒会役員の指示で各方面に分かれ、一人一人がほうきやゴミ取りばさみ、ちりとりを持って分担して作業している。桜の花びらが舞う頃や落ち葉の季節は作業場所がさらに拡大し、やりがいを感じている。
- ・ 毎回、30名から50名余の生徒が参加し、教職員も活動を見守り数名参加した。宣伝活動としてののぼりを作成した。その、のぼりを掲げながら地域や公園を巡り、清掃している。地域の方にも励まされ賞賛の声が上がっている。



## 「校内美化活動（ペンキ塗り）」



- ・ 生徒会と学校支援地域本部の共催で実施した。事前にボランティア募集のポスター作成を呼びかけ、美術部やパソコン部、一般生徒から作品が出品され掲示した。
- ・ 当日は地域の専門家の方から下地塗りやペンキの塗り方を指導していただいた。学校支援地域本部のコーディネーター・保護者・生徒・関係者が協力して2時間ほどかけて、校舎の壁のペンキ塗りを行った。
- ・ 生徒はペンキ塗りだけでなく、養生などの事前準備や後片付けにも参加した。



## 「熊本地震被災中学校への支援活動」



- ・ 生徒総会において熊本地震の被災に対し何か支援活動ができないか提案された。熊本県の中学校に情報提供を打診したところ、校舎が全壊しプレハブの仮校舎で生活していることが分かった。
- ・ プレハブ校舎が金属性の壁のため、画鋲で掲示物が留められずマグネットが必要であることも分かり、生徒会で熊本地震や被害状況について調べて発表するとともに、マグネットの回収を呼びかけ、回収してマグネットを発送した。

## 6 成果

- ・ 自らすすんで行う活動や継続して行う活動に積極的に参加し、生徒が気付き・学び・発見する喜びを実感させることができた。
- ・ 短時間でもたくさん生徒の活躍できる機会を提供することで、生徒に自己有用感をもたせたり、他者貢献したりする大切さを意識させることができた。
- ・ 朝礼や昼の放送で繰り返し呼びかけたり、ポスターを作成したりして、生徒がボランティア活動に参加しようとする雰囲気をつくっていくことができた。また、集団として参加しなくても、一人で行うポスターづくりや時間に固定されない活動など多様なボランティア活動の形態があることを知ることができた。
- ・ 生徒会がテーマやスローガンを掲げて集団としてボランティア活動を進めることによって、自律ある組織として成長していく様子が見られた。

## 実践事例⑪ 大田区立安方中学校

### 1 取組・活動名

「学校防災訓練」

### 2 取組・活動のねらい

- 地震等の災害時に備えるため、防災に対する知識やいざという時の適切な避難行動が取れるようにする。
- 防災訓練を地域住民と実施することにより、地域の一員としての自覚を高め、協働で活動ができるようにする。
- ボランティアマインドの精神を養い、自ら判断し主体的に行動ができるようにする。

### 3 教育課程上の位置付け

「総合的な学習の時間・2時間」

### 4 実施上の工夫

- ・ 2部制とし、まず、地震を想定した避難訓練を行い、防災の目的や意識を高めてから、地域住民と合同の防災訓練を実施するようにしている。
- ・ 防災訓練は9つのグループをつくり、できるだけ少人数にして全員が説明を聞くだけでなく直接作業に関われるようにしている。
- ・ 防災訓練が開始されてからは、地域住民がリーダーシップをとり生徒と協働で作業をする。教員は、サポート役に回り、地域と生徒との触れ合いを大事にするようにしている。
- ・ 事前に道徳や学級活動等で、社会貢献やボランティア活動の大切さについて指導をして意識付けをしている。

### 5 本取組・活動の内容



#### 「仮設トイレの設営」

- ・ 学校の備蓄倉庫の中にある仮設トイレを設置した。
- ・ 骨組みから組み立て、便器と壁面用のシートを据え付けると立派なトイレができ上がった。組み立ては、思ったよりは簡単であった。実際は、この仮設トイレだけでは足りないなので、1階のトイレを整備して使用することである。



### 「負傷者の搬送訓練」

- ・ 担架を使って負傷者を診療所に搬送する訓練を行った。
- ・ 生徒たちは、実際に人を担架に乗せて、運んでみると重くて大変であることが実感できた。
- ・ もし、災害が起きた場合には、多くの負傷者を何度も往復して搬送しなければならないので貴重な体験となった。



### 「初期消火訓練」

- ・ 生徒は、まず消防団員から、道路の散水栓から消防車のポンプにホースを設置する作業工程等の説明を聞き、実際に放水訓練の体験をした。
- ・ 思っていた以上に、水圧があって、目的の場所に放水をすることの作業の難しさを経験することができた。

## 6 成果

- ・ 災害に対する興味・関心が強まり、毎月、実施する避難訓練等の必要性和参加への意識が高まった。
- ・ 比較的少人数のグループごとの訓練のため、順番に直接体験することができ、防災上の予備知識が高まった。
- ・ 地域住民と一緒に活動し、地域の中で貢献することの大切さを知りボランティアマインドの醸成に役立てることができた。
- ・ 防災訓練を通して、地域住民に褒め・認められた体験により、自らの行動に自信が付き自己肯定感や自己有用感が高まった。
- ・ 地域住民と学校や生徒との信頼関係が深まり、様々な場面で地域との連携がスムーズに図れるようになった。

## 実践事例⑫ 杉並区立天沼中学校

### 1 取組・活動名

「ボランティアマインドの醸成」地域ぐるみの防災教育

### 2 取組・活動のねらい

- 災害救援活動や地域貢献活動への意欲と関心を高める。
- 地域社会の中でボランティア活動をすることにより、自尊感情を高める。
- 社会貢献の精神の下、困難を克服する強い意思をもつ生徒を育成する。

### 3 教育課程上の位置付け

「総合的な学習の時間・3時間」

「特別活動・16時間」（リーダー育成）

### 4 実施上の工夫

- ・ 本校の特色ある教育活動として位置付けられている「フレンドシップ」「ボランティアシップ」の精神の下、地域運営学校としての組織や学校支援本部、地域教育推進協議会のサポート体制を活用して地域と連携した。
- ・ 杉並区中学生レスキュー隊に属する生徒や、ボランティア部を中心としたボランティア活動の実績を生かし、中学生による地域で役立つボランティア活動に、主体的、実践的に取り組ませた。
- ・ 全校生徒の4割が参加する杉並区中学生レスキュー隊（天沼中レスキュー隊）を中心に、備蓄食糧に関する知識や、災害時救援活動について防災セミナーを開催して体験的に学ばせ、ボランティアリーダーを育成した。

### 5 本取組・活動の内容



#### 「防災授業への主体的参加・・・HUG 訓練」

- ・ 地域の震災救援所運営委員や卒業生、地域の協協力者や参集者（総参加者数500名）と共に、全校生徒が参加した。
- ・ 3年生は、疑似体験として、HUG（避難所運営ゲーム）訓練を行い、避難所における様々な出来事に対応していくかなど、発災時における中学生としての役割を考えながら参加した。



### 「防災授業への主体的参加・・・炊き出し」

- ・ 2年生は薪を使用した炊き出しで、火おこしから白米の炊飯、おにぎりづくりまでを分担して行った。災害時のライフラインが断絶した状況を想定し、火の扱いや衛生面での配慮等も学んだ。
- ・ 学校支援本部やPTAのサポートを受けながら、全校生徒を含む参加者全員におにぎりを配るところまで、責任をもって実施した。



### 「防災授業への主体的参加・・・応急手当等」

- ・ 1年生は、震災救援所訓練のうち、放水訓練、仮設トイレ設置、AED操作や包帯法などの救急救命、応急手当の技術を身に付けた。
- ・ 震災救援所運営委員の方や消防署、消防団などの地域の方の指導を受けたり、一般の方々と交流したりする場面もあり、地域社会で支えられていることが実感できる活動を体験できた。

## 6 成果

- ・ 「防災教育」に全校で取り組み、防災意識を高めることができた。6月に募集した杉並区中学生レスキュー隊に116名応募、全校生徒の4割が隊員として校内でも活動するなど、ボランティア意識を高めることができた。
- ・ 「フレンドシップ」「ボランティアシップ」をスローガンとして掲げ、地域におけるボランティア活動を活発化し、地域ぐるみの防災教育を推進した。また、社会に貢献しようとする意欲をフレンドシッププログラムで育て、ボランティアシップカードを基に奉仕活動を推進したことで、子供たちの自尊感情の高まりがみられた。
- ・ その他、「28年度版私たちが選んだオリンピック、パラリンピアンという言葉～ことだま百選」のレポートを全校生徒が作成、冊子にして共有した。また、保健体育の授業では、スペシャルオリンピックスにおけるフロアホッケー、フットベース、パラリンピック種目のゴールボールを体験したり、視覚障害者のパラリンピアンから話を聞いたりしたことから、特に障害者のスポーツについての理解や支援の在り方について考えるきっかけとなった。

## 実践事例⑬ 練馬区立開進第四中学校

### 1 取組・活動名

「ボランティアマインドの醸成」近隣小学校のお祭りの手伝い、小学生陸上大会の運営、夜間防災訓練の取組

### 2 取組・活動のねらい

- 他者を思いやり、主体的に奉仕しようとする生徒を育てる。
- 共に助け合い、支え合い、協力して課題解決に取り組もうとする生徒を育てる。
- 広い視野をもって、様々な価値観を認め、共生しようとする生徒を育てる。

### 3 教育課程上の位置付け

「学校行事・各2時間」

### 4 実施上の工夫

- ・ 生徒会が中心となり、ボランティアTシャツの作成に取り組ませる。全校生徒にTシャツのデザインを募集し、生徒会本部役員に選定させる。生徒会朝礼でデザインを発表し、完成したTシャツを提示することで、全校生徒に学校全体が一丸となってボランティア活動に参加する意識をもたせる。
- ・ 近隣小学校への夏祭りのお手伝いでは、卒業した小学校のお祭りであることから参加しやすく、友人を誘いながらボランティア参加者数を増やすことができる。友人同士でグループを作り、駐輪場の整理、ゴミの分別など裏側の仕事を率先して行わせる。
- ・ 小学生陸上教室や大会は陸上部を中心とした生徒に運営させる。小中学生間のコミュニケーションが深まるように、ウォーミングアップから表彰まで取り組ませる。
- ・ 夜間防災訓練では、小学生、地域の方、中学生スタッフでグループを構成し、中学生スタッフをグループリーダーとして運営にあたらせる。「受付」「避難誘導」「炊き出し」「グループワーク」に分かれて、避難拠点要員の手伝いをするすることで、人の役に立つことを学ばせる。

### 5 本取組・活動の内容



#### 「近隣小学校のお祭りのお手伝い」

- ・ 近隣小学校の夏祭りのスタッフの一員として参加する。
- ・ 「釣り堀ゲームの準備」「ゲームの景品（ソースせんべい）の準備」「パンの販売」「駐輪場整備」「ゴミステーションでのゴミの分別」等の仕事をグループに分かれて行う。



### 「小学生陸上大会の運営」

- ・ 夏休みに、陸上部・生徒会役員が運営して「小学生陸上教室」「ドラゴンダッシュ選手権」(50m走の大会)を実施する。
- ・ 小学生陸上教室では陸上部を中心にグループを作り、中学生がコーチとなって、速く走るためのポイントを小学生の低学年から高学年まで、学年ごとに指導する。
- ・ 大会運営では、集合から表彰まで、必要な仕事を一人一役として分担している。



### 「夜間防災訓練の取組」

- ・ 学校で行われる地域連携夜間防災訓練に参加し、避難拠点要員の方々と協力をして、災害時に地域に貢献できる能力を養う。
- ・ 「受付」「避難誘導」「炊き出し」「グループワーク」に分かれて、避難拠点要員の手伝いをする。
- ・ 「グループワーク」では、近隣の小学生と地域の大人とグループを作り、段ボールや新聞紙を利用して、生活場所の確保とスリッパ作り、テーブル作りを行う。

## 6 成果

- ・ 近隣小学校のお祭りの手伝いでは、中学生として奉仕活動に取り組むことで、「卒業した小学校のお手伝いができた」「人の役に立つことができた」という達成感や自尊感情が生まれ、「もっとやりたい、貢献したい」というボランティア精神が高まった。また、小中連携活動にもつながり、工夫次第ではもっと活性化できると感じた。
- ・ 「小学生陸上教室」「ドラゴンダッシュ選手権」後には、「また、やりたい」「次の機会の時は活かしたい」という感想が多く出され、小学生の陸上大会の運営でボランティアマインドが醸成された。また、部活動の大会は審判や会場づくりなど、運営に関わる方の支援があるからこそ開催できることを、生徒達は知ることができた。
- ・ 夜間防災訓練の取組では災害時に中学生が働くことや小学生や地域の大人と協力することの大切さを体験し、自尊感情が高まった。また、小さい子供の世話をすることで、周りを意識した行動がとれ、判断力もついた。また、中学生の行動が地域の方から評価され、中学生がスタッフやリーダーとして運営に関わることについて自信をもつことにつながった。

## 実践事例⑭ 足立区立千寿桜堤中学校

### 1 取組・活動名

「勝手に応援プロジェクト」

### 2 取組・活動のねらい

- オリンピック・パラリンピック出場選手への応援・交流
  - ・ 東京 2020 大会に向けて、オリンピック・パラリンピックへの関心を高める。
  - ・ 普段接することの少ないパラスポーツへの理解を深める。
- ボランティアマインドの醸成
  - ・ 自ら行動を起こし、実践することで生まれる喜びを通して、他人の役に立つことやボランティアの意義を理解する。
  - ・ 募金活動や地域活動等を通して、ボランティアへの関心を高める。

### 3 教育課程上の位置付け

「総合的な学習の時間・8時間」

### 4 実施上の工夫

- ・ 活動の主体を生徒とし、生徒総会等であげられた生徒の意見から具体的な活動を決定した。
- ・ 生徒会中心で準備を行い、ボランティアを募り全校生徒の協力のもと実施する。
- ・ オリンピック・パラリンピック応援プロジェクトでは全校生徒が関わり、自筆のメッセージを選手へ送ることで応援を行う。

### 5 本取組・活動の内容



#### 「オリンピックを全校で応援」

- ・ 女子重量挙げのオリンピックを応援するために、全校生徒で千羽鶴を折って、オリンピックに届けた。
- ・ 生徒会が中心となり、全校生徒で一人一つ鶴を折って作成をした。全校生徒が短時間で鶴を折ることができるよう工夫をし、校内の中央委員会などを活用して仕上げた。
- ・ その後、オリンピックはリオデジャネイロオリンピックにて銅メダルを獲得し、その原動力になったと感謝のメッセージを頂いた。

## 「パラリンピアンを全校で応援」



- ・ 1・2年生が中心となって、リオパラリンピック出場選手へ応援メッセージを作成し、届けた。パラリンピック終了後、選手本人が本校で講演会を行い、直接応援のお礼を言われる機会にも恵まれた。
- ・ 障害についての考え方、設備や環境等の配慮事項等のほか、できない事をできるようになる方法を考えることや夢をもつこと、無いものを悔やむのではなく、諦めずに工夫して取り組むことで新たな道が開けることなど、障害者理解だけでなく、受験を控えた生徒にとって大変貴重な時間となった。

## 「生徒の発案で熊本を応援」



- ・ 昨年度の生徒総会で、生徒から「熊本募金をやりたい」という提案が出たことをきっかけに始まった活動である。
- ・ はじめは校内での募金だったが、地元の方々の協力もあり、生徒会の声かけによって集まったボランティアの生徒とともに北千住駅前にて募金を行なった。
- ・ 少しでも熊本の力になれたという気持ちと同時に、地域の方々の暖かさを感じることができた。

## 6 成果

- ・ 自らすすんで行動することで予想をしていなかった成果が生まれ、生徒たちの中に物事を前向きに捉える資質を養うことができた。
- ・ 誰かのためにと考えて行動が、最終的には自分自身の心が満たされることになったという、ボランティアマインドの本質を捉えた成長・気付きがあった。
- ・ 実際にオリンピックやパラリンピックとメッセージカード等を通して関わることによって、オリンピック・パラリンピックに興味をもつ生徒が多くなった。
- ・ 普段関わりの少ないパラスポーツについて、選手の講演等を通して関心をもち、障害のある方への理解を深めることができた。
- ・ リオオリンピック・パラリンピックを通して、東京2020大会にも関心をもち、オリンピック・パラリンピックにもいろいろな形で関わっていきたいと考えるようになった。
- ・ 勝手に応援プロジェクトから、スポーツだけでなくボランティアに広く関心をもち、被災地の復興支援などを行いたいという気持ちが芽生えた。
- ・ 地域の方々の協力を得て街頭での募金活動を実施することによって、学校と地域の関係がより深いものになった。

## 実践事例⑮ 武蔵村山市立第二中学校（村山学園）

### 1 取組・活動名

「小中一貫教育全国サミットに向けた『場に応じた礼儀作法とその実践』」

### 2 取組・活動のねらい

- 社会の一員として、相手に対する心づかいを適切な行動として表せるように、日常礼儀作法について学び、時と場に応じた適切な言動について理解し実践する態度を育てる。

### 3 教育課程上の位置付け

「総合的な学習の時間・6時間」

### 4 実施上の工夫

- ・ 「江戸しぐさは心のマナー」を読み、相手を思いやる言動について知り、「現代版江戸しぐさ」をグループで考える。
- ・ 「立ち方」「お辞儀」「敬語」についてクイズ形式で考え、礼儀作法の基本を知る。
- ・ 場に応じた言動をとることができるか、ロールプレイングを行い、グループの中で評価し合う。
- ・ 実践を振り返り、成果と課題について話し合い、どのように今後に生かしていくのか考える。

### 5 本取組・活動の内容



- ・ 生徒は傘傾げ、肩引きなどの江戸仕草について学んだ後、現代版の江戸仕草をグループで考えた。
- ・ 電車の混雑時にはリュックなどの持ち物を前にかける「カンガルー」や、何かあったら言い訳ではなく謝するという「まずあやまり」など様々な現代版江戸仕草を考え、実演した。



- ・ 「立ち方」「お辞儀」「敬語」についてクイズ形式で考え、場に応じた言動をとることができるか、ロールプレイを行い、生徒同士で評価した。
- ・ 当日の役割について担当を決めて、マニュアルを読み合わせ、場面を想定したロールプレイングを通して、明確な目標をグループごとに考え、実践した。



- ・ 小中一貫教育全国サミット当日は、来賓、会員、地域の方と細かく受付場所を分けて対応した。
- ・ 初めて来校された方が困らないようにラミネートした小さな会場図を渡し、校内外を案内した。
- ・ 大きな荷物のあるお客様から荷物を預かる場合は、番号札を渡しお帰りの際に荷物が混ざって混乱しないように実施した。

## 6 成果

- ・ 生徒は、TPOに応じた言葉遣いや「おもてなし」の心得を学ぶことができた。
- ・ 生徒は、貴重な体験を通して、敬語やしっかりとした服装で対応することの大切さを学ぶことができた。
- ・ 生徒は、当日に向けたあらゆる場面を想定したマニュアルを作成できた。マニュアルに表現できないこともあることから、ペアの生徒と協力し、自分たちで考え、工夫して対応することができた。
- ・ 礼儀作法は一朝一夕で身に付くものではなく、積み重ねがあってこそ、「おもてなし」の実践ができるようになることを学ぶことができた。

## 実践事例①⑥ 東京都立第三商業高等学校

### 1 取組・活動名

「地域活性化を目指した地域連携と振興活動によるボランティア・マインドの醸成」

### 2 取組・活動のねらい

- 将来性豊かな「豊洲」地区の産業界と連携することで、連携先を広げる。
- 販売促進のアイデアを検討実施することで、地域活性化に貢献する。
- 接客を通じて、ホスピタリティーの醸成・ボランティア・マインドの醸成を図る。
- 実体験を通じて、これまでに学んだ「商業」の知識を活用し、生きた知識とする。

### 3 教育課程上の位置付け

「課題研究・16時間」(講座履修者のなかから希望者を募り、特別活動として実施)

### 4 実施上の工夫

- ・ 従来女性向けのイベントだったものを、工夫することで男性客や高齢者、家族連れの顧客に対しても興味を引くための企画・検討を行った。
- ・ 店舗の担当者との打合せを行い、店舗側の要望やねらいを十分に生かせるようにした。
- ・ 接客を通して顧客が何を望んでいるか、満足いただけるにはどうすればよいかを研究した。
- ・ ボランティアとして求められることが何かを得るよう努めた。

### 5 本取組・活動の内容

「花束を贈る習慣づくりに貢献」 — チューリップの球根詰め放題とチューリップの切り花の販売促進イベント —

- ・ 従来は球根の詰め放題だけのイベントで女性客がターゲットだったが、男性客にも興味をもってもらおうと、球根のパッケージの工夫、チューリップの切り花をラッピングしたものを積極的に販売した。
- ・ 更に培養土や鉢なども含めた販売促進活動を行った。



## 「新年を迎え、日頃からの感謝の気持ちを胸に地域活性化活動に参加」

－ 「新年 宝船による福分け」 行事に地域活性化応援隊として －

- ・ 「新年 宝船による福分け」行事に日頃からの感謝の気持ちを込め、応援隊として生徒が参加した。
- ・ 「新年”福分け”」の趣旨を踏まえた上で、「宝船」についても情報の収集にも努めた。配布チラシや案内ポスター等も作成し、当日の活動に役立てた。



- ・ 初めて目にした宝船満載のお花には驚きを隠せないだけでなく、新年お祝いの気持ちを新たに有難さを噛みしめた。



## 6 成果

- ・ 生徒も最初は遠慮がちであったが、徐々にしっかりと活動を行うことができた。
- ・ 多様な活動を通して、多くの方々と接するなかで社会の仕組みを理解するとともに、社交性を育み、更には「おもてなしの心」「ホスピタリティ・マインド」が生まれた。
- ・ 生徒の地域貢献と社会参加により、ボランティア・マインドが育成できた。
- ・ 自ら考えて行動する主体的態度が見についた。
- ・ 今後は教育課程に位置付け、講座履修者全員で取り組んでいく必要がある。